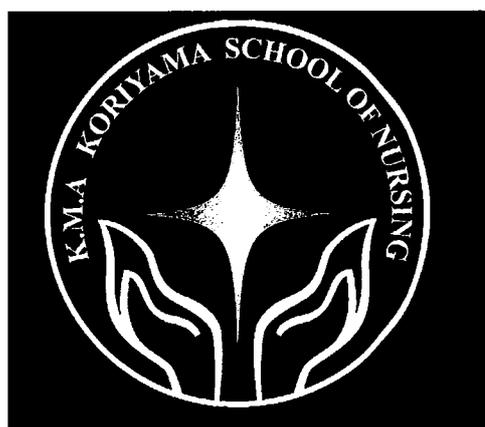


新カリキュラム  
シラバス



郡山看護専門学校  
看護学科  
第11回生  
(令和5年度：1年生)

科目名		時間数	単位	実施時期	講義担当者																																																																												
ロジカルシンキング		15	1	1年次	佐藤 肇																																																																												
<p>&lt;学習目標&gt;</p> <p>1. 体系的に物事を整理し、筋道をたてて考えることができる。</p> <p>2. クリティカルシンキングを活用し、意識的に自分の考えを批判的に見る力を養う。</p> <p>3. 看護師としての人間関係を形成するコミュニケーション力（聴く力、伝える力）を養う。</p>																																																																																	
<p>&lt;授業計画&gt;</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>回数</th> <th>時間</th> <th>学習内容</th> <th>方法</th> <th>備考（教材等）</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>2</td> <td>社会人基礎力、ロジカルシンキングとは クリティカルシンキングとは</td> <td>講義</td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td>4</td> <td>ロジカルシンキングの3つの論理について (演繹法・帰納法・弁証法)</td> <td>講義</td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td>6</td> <td>ロジカルシンキングを鍛える方法 (「新聞記事を読み、事実、経緯、意見等を書こう」など)</td> <td>演習</td> <td></td> </tr> <tr> <td>4</td> <td>8</td> <td>ロジカルシンキングを鍛える方法 (「言葉のみを使ってプレゼンテーションをしよう」など)</td> <td>演習</td> <td></td> </tr> <tr> <td>5</td> <td>10</td> <td rowspan="3">ロジカルシンキングの実践</td> <td>演習</td> <td></td> </tr> <tr> <td>6</td> <td>12</td> <td>演習</td> <td></td> </tr> <tr> <td>7</td> <td>14</td> <td>演習</td> <td></td> </tr> <tr> <td>8</td> <td>16</td> <td rowspan="3"> <p>「ロジカルシンキング」では、自分の考えを直感的・感覚的に捉えるのではなく筋道をたてて考えることを身に着ける。また、相手の考えをバイアスに捕らわれず聞くことができ、物事を分解し、整理して考えられる基礎を学ぶ。そうすることで、根拠を基に物事を考えることができ、自分の考えを相手に伝えることができるようになることを願う。さらに、科学的根拠に基づいた看護を実践するには、ロジカルシンキングは重要と考える。</p> </td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>9</td> <td>18</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>10</td> <td>20</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>11</td> <td>22</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>12</td> <td>24</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>13</td> <td>26</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>14</td> <td>28</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>15</td> <td>30</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>						回数	時間	学習内容	方法	備考（教材等）	1	2	社会人基礎力、ロジカルシンキングとは クリティカルシンキングとは	講義		2	4	ロジカルシンキングの3つの論理について (演繹法・帰納法・弁証法)	講義		3	6	ロジカルシンキングを鍛える方法 (「新聞記事を読み、事実、経緯、意見等を書こう」など)	演習		4	8	ロジカルシンキングを鍛える方法 (「言葉のみを使ってプレゼンテーションをしよう」など)	演習		5	10	ロジカルシンキングの実践	演習		6	12	演習		7	14	演習		8	16	<p>「ロジカルシンキング」では、自分の考えを直感的・感覚的に捉えるのではなく筋道をたてて考えることを身に着ける。また、相手の考えをバイアスに捕らわれず聞くことができ、物事を分解し、整理して考えられる基礎を学ぶ。そうすることで、根拠を基に物事を考えることができ、自分の考えを相手に伝えることができるようになることを願う。さらに、科学的根拠に基づいた看護を実践するには、ロジカルシンキングは重要と考える。</p>			9	18			10	20			11	22				12	24				13	26				14	28				15	30			
回数	時間	学習内容	方法	備考（教材等）																																																																													
1	2	社会人基礎力、ロジカルシンキングとは クリティカルシンキングとは	講義																																																																														
2	4	ロジカルシンキングの3つの論理について (演繹法・帰納法・弁証法)	講義																																																																														
3	6	ロジカルシンキングを鍛える方法 (「新聞記事を読み、事実、経緯、意見等を書こう」など)	演習																																																																														
4	8	ロジカルシンキングを鍛える方法 (「言葉のみを使ってプレゼンテーションをしよう」など)	演習																																																																														
5	10	ロジカルシンキングの実践	演習																																																																														
6	12		演習																																																																														
7	14		演習																																																																														
8	16	<p>「ロジカルシンキング」では、自分の考えを直感的・感覚的に捉えるのではなく筋道をたてて考えることを身に着ける。また、相手の考えをバイアスに捕らわれず聞くことができ、物事を分解し、整理して考えられる基礎を学ぶ。そうすることで、根拠を基に物事を考えることができ、自分の考えを相手に伝えることができるようになることを願う。さらに、科学的根拠に基づいた看護を実践するには、ロジカルシンキングは重要と考える。</p>																																																																															
9	18																																																																																
10	20																																																																																
11	22																																																																																
12	24																																																																																
13	26																																																																																
14	28																																																																																
15	30																																																																																
<p>終講試験</p>																																																																																	
<p>&lt;事前学習&gt;</p>																																																																																	
<p>&lt;テキスト等の準備物品&gt;</p> <p>3分でわかるロジカルシンキングの基本：大石哲之      考えることは力になる：岩田健太郎</p>																																																																																	
<p>&lt;評価方法&gt;</p> <p>ワークシート      レポート      筆記試験</p>																																																																																	

科目名		時間数	単位	実施時期	講義担当者																																																																																
生涯教育論		15	1	1年次	中西 由美																																																																																
<学習目標> 1. 人として、医療の担い手として成長するための教育の意義を理解することができる。 2. 生涯にわたって学び続ける必要性を理解することができる。					病院で看護師として勤務経験あり																																																																																
<授業計画> <table border="1" style="width:100%; border-collapse: collapse;"> <thead> <tr> <th>回数</th> <th>時間</th> <th>学習内容</th> <th>方法</th> <th>備考 (教材等)</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>2</td> <td>ガイダンス 看護学生がなぜ教育論を学ぶのか</td> <td>講義</td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td>4</td> <td>教授 教育基本法 人を教える、学ぶということ</td> <td>講義</td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td>6</td> <td>自己理解・他者理解 座右の銘、 ジョハリの窓</td> <td>講義</td> <td></td> </tr> <tr> <td>4</td> <td>8</td> <td>訓育 訓育とは 他者とのかかわりを導くこと いじめの構造・ゲートキーパーとは</td> <td>講義</td> <td></td> </tr> <tr> <td>5</td> <td>10</td> <td>発達/養護 教育を受けて成長する一病児教育 養護と看護の異同</td> <td>講義</td> <td></td> </tr> <tr> <td>6</td> <td>12</td> <td>生涯教育 生涯教育 リカレント教育</td> <td>講義</td> <td></td> </tr> <tr> <td>7</td> <td>14</td> <td>看護の心 患者の求める看護師像</td> <td>講義</td> <td></td> </tr> <tr> <td>8</td> <td>16</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>9</td> <td>18</td> <td colspan="2" style="border: 1px solid black; padding: 5px;">           教えるを乞うことの大切さ、教えることでそれをつなげることの重要性を学んでほしい         </td> <td></td> </tr> <tr> <td>10</td> <td>20</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>11</td> <td>22</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>12</td> <td>24</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>13</td> <td>26</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>14</td> <td>28</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>15</td> <td>30</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>						回数	時間	学習内容	方法	備考 (教材等)	1	2	ガイダンス 看護学生がなぜ教育論を学ぶのか	講義		2	4	教授 教育基本法 人を教える、学ぶということ	講義		3	6	自己理解・他者理解 座右の銘、 ジョハリの窓	講義		4	8	訓育 訓育とは 他者とのかかわりを導くこと いじめの構造・ゲートキーパーとは	講義		5	10	発達/養護 教育を受けて成長する一病児教育 養護と看護の異同	講義		6	12	生涯教育 生涯教育 リカレント教育	講義		7	14	看護の心 患者の求める看護師像	講義		8	16				9	18	教えるを乞うことの大切さ、教えることでそれをつなげることの重要性を学んでほしい			10	20				11	22				12	24				13	26				14	28				15	30			
回数	時間	学習内容	方法	備考 (教材等)																																																																																	
1	2	ガイダンス 看護学生がなぜ教育論を学ぶのか	講義																																																																																		
2	4	教授 教育基本法 人を教える、学ぶということ	講義																																																																																		
3	6	自己理解・他者理解 座右の銘、 ジョハリの窓	講義																																																																																		
4	8	訓育 訓育とは 他者とのかかわりを導くこと いじめの構造・ゲートキーパーとは	講義																																																																																		
5	10	発達/養護 教育を受けて成長する一病児教育 養護と看護の異同	講義																																																																																		
6	12	生涯教育 生涯教育 リカレント教育	講義																																																																																		
7	14	看護の心 患者の求める看護師像	講義																																																																																		
8	16																																																																																				
9	18	教えるを乞うことの大切さ、教えることでそれをつなげることの重要性を学んでほしい																																																																																			
10	20																																																																																				
11	22																																																																																				
12	24																																																																																				
13	26																																																																																				
14	28																																																																																				
15	30																																																																																				
終講試験																																																																																					
<事前学習>																																																																																					
<テキスト等の準備物品> なし																																																																																					
<評価方法> 終講試験 講義への出席状況																																																																																					

科目名		時間数	単位	実施時期	講義担当者
看護情報科学		30	1	1年次	齋藤 正一 病院で診療放射線技師として勤務経験あり
<p>&lt;学習目標&gt;</p> <p>1. 情報を扱ううえでの善悪の判断基準を理解し、情報を適切に扱うためのルールを守ることができる。</p> <p>2. 様々なデータベースを正しく使用し、看護の実践や研究に活用できる。</p> <p>3. PCを活用したより効果的なプレゼンテーション技術を身に付けることができる。</p> <p>&lt;授業計画&gt;</p>					
回数	時間	学習内容		方法	備考（教材等）
1	2	情報と情報科学	情報の意義と特徴 情報化社会	講義	PP
2	4	保健医療と情報	医療情報の種類、医療におけるコミュニケーション、医療情報システム、医療情報の利用と倫理、エビデンス情報に基づいた保健医療、ヘルスプロモーションにおけるデータ、情報・知識、ヘルスリテラシー向上の支援、情報科学社会と看護、情報処理学会倫理綱領	講義	PP
3	6	看護と情報	医療における情報の記録、看護過程の構成、看護記録、カルテについて、病院情報システムと記録	講義	PP
4	8	医療における情報システム	知的財産権、プライバシー権、医療倫理の4つの原則・倫理綱領 患者の権利（リスボン宣言、インフォームドコンセント）	講義	PP
5	10	情報倫理と医療倫理	法律、情報の利用の仕方、看護情報システム 情報リテラシー、インターネットの仕組み	講義	PP
6	12	患者の権利と情報	インターネットを使った、貼り付けの練習 作成した文章の保存の仕方	演習	
7	14	個人情報の保護 コンピューターリテラシーとセキュリティ	グループワークでの課題についての説明 キーワード検索	演習	
8	16	情報処理	Wordでの課題（保健、医療、介護、福祉） の資料作成	演習	
9	18	既存の情報の収集方法	Excelデータ処理 （% 平均 標準 偏差値とは）	演習	
10	20	調査によるデータ収集方法	Wordでの課題（保健、医療、介護、福祉） の資料作成 個人ワーク、グループワーク	演習	
11	22	Excelによる統計解析	課題（保健、医療、介護、福祉）をパワーポイント を使ってまとめる グループワーク	演習	
12	24	文字情報の整理	課題をグループごとにパワーポイントで発表	グループ発表	
13	26	情報の発表とコミュニケーション	課題をグループごとにパワーポイントで発表 授業の復習	グループ発表	
14	28	グループ発表	終講試験		
15	30	グループ発表	<p>&lt;事前学習&gt;</p> <p>&lt;テキスト等の準備物品&gt;</p> <p>別巻 看護情報学 医学書院</p> <p>&lt;評価方法&gt;</p> <p>筆記試験 60%、演習レポート40%</p>		

科目名		時間数	単位	実施時期	講義担当者
看護心理学		15	1	1年次	芝 文彦
<学習目標> 1. 人間の行動と心理的状态を理解することに関わる心理学の基礎概念を学ぶことができる。 2. 看護の臨床の場で出会う人々の心の在り方を洞察する力を養うことができる。 3. 自己の心のあり方をみつめ、自己自律につなげることができる。					
<授業計画>					
回数	時間	学習内容	方法	備考(教材等)	
1	2	オリエンテーション、看護に活かす心理学、認知からの人間理解	講義	PP資料、テキスト	
2	4	行動からの人間理解 (欲求、動機づけ理論、適応、学習理論)	講義	PP資料、テキスト	
3	6	発達からの人間理解 (発達段階と発達課題、認知、愛着の発達)	講義	PP資料、テキスト	
4	8	人格からの人間理解 (パーソナリティ理論、パーソナリティ障害)	講義	PP資料、テキスト	
5	10	人間関係からの人間理解 (対人認知、帰属、対人魅力、ストレスと適応)	講義	PP資料、テキスト	
6	12	アセスメントと心理療法 (心理検査、心理療法、演習)	講義、演習	PP資料、テキスト	
7	14	難病、虐待、DVの心理支援 緩和ケア、ターミナルケア (難病、虐待、DV、終末期医療の理解)	講義	PP資料、テキスト	
8	16				
9	18				
10	20				
11	22				
12	24				
13	26				
14	28				
15	30				
終講試験					
<事前学習>					
<テキスト等の準備物品> 新体系看護学全集 基礎分野 心理学 メヂカルフレンド					
<評価方法> 終講試験 出席状況					

科目名		時間数	単位	実施時期	講義担当者																																																																														
生命倫理		20	1	1年次	大童法慧 清水千世 多々良さつき																																																																														
<p>&lt;学習目標&gt;</p> <p>1. 生命（いのち）とは何かを考えることができる。</p> <p>2. 生命倫理の歴史的背景・原則を知り、人間の尊厳と人権の尊重について考えることができる。</p> <p>3. 自己の死生観を持つことができる。</p>																																																																																			
<p>&lt;授業計画&gt;</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>回数</th> <th>時間</th> <th>学習内容</th> <th>方法</th> <th>備考（教材等）</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>2</td> <td>生命倫理とは 生命とは何か 生命倫理の歴史的背景 生命倫理の原則 自己決定権 インフォームドコンセント</td> <td>講義</td> <td>清水千世</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td>4</td> <td rowspan="3">それぞれの宗教における生と死</td> <td>仏教における「いのち」とは「生、死」とは 自分自身の「生」と向き合う</td> <td>講話</td> </tr> <tr> <td>3</td> <td>6</td> <td>座禅/写経 体験</td> <td rowspan="2">大童 法慧</td> </tr> <tr> <td>4</td> <td>8</td> <td>キリスト教における「いのち」とは「生、死」とは</td> <td>講話</td> </tr> <tr> <td>5</td> <td>10</td> <td>生きるとは 「生きるとはなにか？」について 自分の考えをまとめる</td> <td>レポート課題</td> <td>*評価の対象</td> </tr> <tr> <td>6</td> <td>12</td> <td rowspan="3">超高齢社会を考える 映画「PLAN75」 視聴</td> <td>超高齢社会の高齢者のQOLを考える 超高齢社会を支える人たちについて考える</td> <td></td> </tr> <tr> <td>7</td> <td>14</td> <td>映画「PLAN75」 視聴</td> <td>映画視聴</td> <td>*シネメディアケーション</td> </tr> <tr> <td>8</td> <td>16</td> <td>グループ ディベート</td> <td></td> <td>*評価の対象</td> </tr> <tr> <td>9</td> <td>18</td> <td rowspan="2">生命のおわりをめぐる倫理問題</td> <td>安楽死・尊厳死、平穏死を考える 日本における安楽死の現状 日本における「自己決定権」のあり方</td> <td></td> </tr> <tr> <td>10</td> <td>20</td> <td>グループ ディベート</td> <td></td> <td>*評価の対象</td> </tr> <tr> <td>11</td> <td>22</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>12</td> <td>24</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>13</td> <td>26</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>14</td> <td>28</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>15</td> <td>30</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>						回数	時間	学習内容	方法	備考（教材等）	1	2	生命倫理とは 生命とは何か 生命倫理の歴史的背景 生命倫理の原則 自己決定権 インフォームドコンセント	講義	清水千世	2	4	それぞれの宗教における生と死	仏教における「いのち」とは「生、死」とは 自分自身の「生」と向き合う	講話	3	6	座禅/写経 体験	大童 法慧	4	8	キリスト教における「いのち」とは「生、死」とは	講話	5	10	生きるとは 「生きるとはなにか？」について 自分の考えをまとめる	レポート課題	*評価の対象	6	12	超高齢社会を考える 映画「PLAN75」 視聴	超高齢社会の高齢者のQOLを考える 超高齢社会を支える人たちについて考える		7	14	映画「PLAN75」 視聴	映画視聴	*シネメディアケーション	8	16	グループ ディベート		*評価の対象	9	18	生命のおわりをめぐる倫理問題	安楽死・尊厳死、平穏死を考える 日本における安楽死の現状 日本における「自己決定権」のあり方		10	20	グループ ディベート		*評価の対象	11	22				12	24				13	26				14	28				15	30			
回数	時間	学習内容	方法	備考（教材等）																																																																															
1	2	生命倫理とは 生命とは何か 生命倫理の歴史的背景 生命倫理の原則 自己決定権 インフォームドコンセント	講義	清水千世																																																																															
2	4	それぞれの宗教における生と死	仏教における「いのち」とは「生、死」とは 自分自身の「生」と向き合う	講話																																																																															
3	6		座禅/写経 体験	大童 法慧																																																																															
4	8		キリスト教における「いのち」とは「生、死」とは		講話																																																																														
5	10	生きるとは 「生きるとはなにか？」について 自分の考えをまとめる	レポート課題	*評価の対象																																																																															
6	12	超高齢社会を考える 映画「PLAN75」 視聴	超高齢社会の高齢者のQOLを考える 超高齢社会を支える人たちについて考える																																																																																
7	14		映画「PLAN75」 視聴	映画視聴	*シネメディアケーション																																																																														
8	16		グループ ディベート		*評価の対象																																																																														
9	18	生命のおわりをめぐる倫理問題	安楽死・尊厳死、平穏死を考える 日本における安楽死の現状 日本における「自己決定権」のあり方																																																																																
10	20		グループ ディベート		*評価の対象																																																																														
11	22																																																																																		
12	24																																																																																		
13	26																																																																																		
14	28																																																																																		
15	30																																																																																		
<p>終講試験</p>																																																																																			
<p>&lt;事前学習&gt;</p> <p>基本的なレポート書き方を習得すること</p>																																																																																			
<p>&lt;テキスト等の準備物品&gt;</p>																																																																																			
<p>&lt;評価方法&gt;</p> <p>課題レポート(自己の死生観) 出席状況 ディベートの状況</p>																																																																																			

科目名		時間数	単位	実施時期	講義担当者																																																																																
人間関係論		30	1	1年次	山下 和彦																																																																																
<p>&lt;学習目標&gt;</p> <p>1. 自己と他者を理解し、人間関係をつくるための理論や技法を学ぶことができる。</p> <p>2. 看護における人間関係構築の重要性を理解することができる。</p> <p>3. 現代社会の家族の特徴と多様性を理解し、様々な状況における家族への看護を考えることができる。</p>																																																																																					
<p>&lt;授業計画&gt;</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>回数</th> <th>時間</th> <th>学習内容</th> <th>方法</th> <th>備考（教材等）</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>2</td> <td>人間関係の中の自己と他者</td> <td>講義・演習</td> <td>PP</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td>4</td> <td>人間関係におけるストレスとストレスコーピング</td> <td>講義</td> <td>資料</td> </tr> <tr> <td>3</td> <td>6</td> <td>患者・看護師間の相互作用</td> <td>演習</td> <td>資料</td> </tr> <tr> <td>4</td> <td>8</td> <td>カウンセリングと心理療法概説</td> <td>講義・演習</td> <td>資料</td> </tr> <tr> <td>5</td> <td>10</td> <td>心理療法のスキル（認知行動療法）①</td> <td>講義・演習</td> <td>資料</td> </tr> <tr> <td>6</td> <td>12</td> <td>心理療法のスキル（認知行動療法）②</td> <td>講義・演習</td> <td>資料</td> </tr> <tr> <td>7</td> <td>14</td> <td>カウンセリングのスキル（傾聴の基礎）①</td> <td>講義・演習</td> <td>PP、資料</td> </tr> <tr> <td>8</td> <td>16</td> <td>カウンセリングのスキル（傾聴の基礎）②</td> <td>講義・演習</td> <td>PP、資料</td> </tr> <tr> <td>9</td> <td>18</td> <td>カウンセリングのスキル（傾聴の応用）①</td> <td>講義・演習</td> <td>PP、資料</td> </tr> <tr> <td>10</td> <td>20</td> <td>カウンセリングのスキル（傾聴の応用）②</td> <td>講義・演習</td> <td>PP、資料</td> </tr> <tr> <td>11</td> <td>22</td> <td>アサーティブ・コミュニケーション①</td> <td>講義・演習</td> <td>資料</td> </tr> <tr> <td>12</td> <td>24</td> <td>アサーティブ・コミュニケーション②</td> <td>講義・演習</td> <td>資料</td> </tr> <tr> <td>13</td> <td>26</td> <td>コーチング</td> <td>講義・演習</td> <td>資料</td> </tr> <tr> <td>14</td> <td>28</td> <td>家族を含めた人間関係（家族システム）</td> <td>講義・演習</td> <td>資料</td> </tr> <tr> <td>15</td> <td>30</td> <td>家族を含めた人間関係（遺族の心理とケア）</td> <td>講義・演習</td> <td>資料</td> </tr> </tbody> </table>						回数	時間	学習内容	方法	備考（教材等）	1	2	人間関係の中の自己と他者	講義・演習	PP	2	4	人間関係におけるストレスとストレスコーピング	講義	資料	3	6	患者・看護師間の相互作用	演習	資料	4	8	カウンセリングと心理療法概説	講義・演習	資料	5	10	心理療法のスキル（認知行動療法）①	講義・演習	資料	6	12	心理療法のスキル（認知行動療法）②	講義・演習	資料	7	14	カウンセリングのスキル（傾聴の基礎）①	講義・演習	PP、資料	8	16	カウンセリングのスキル（傾聴の基礎）②	講義・演習	PP、資料	9	18	カウンセリングのスキル（傾聴の応用）①	講義・演習	PP、資料	10	20	カウンセリングのスキル（傾聴の応用）②	講義・演習	PP、資料	11	22	アサーティブ・コミュニケーション①	講義・演習	資料	12	24	アサーティブ・コミュニケーション②	講義・演習	資料	13	26	コーチング	講義・演習	資料	14	28	家族を含めた人間関係（家族システム）	講義・演習	資料	15	30	家族を含めた人間関係（遺族の心理とケア）	講義・演習	資料
回数	時間	学習内容	方法	備考（教材等）																																																																																	
1	2	人間関係の中の自己と他者	講義・演習	PP																																																																																	
2	4	人間関係におけるストレスとストレスコーピング	講義	資料																																																																																	
3	6	患者・看護師間の相互作用	演習	資料																																																																																	
4	8	カウンセリングと心理療法概説	講義・演習	資料																																																																																	
5	10	心理療法のスキル（認知行動療法）①	講義・演習	資料																																																																																	
6	12	心理療法のスキル（認知行動療法）②	講義・演習	資料																																																																																	
7	14	カウンセリングのスキル（傾聴の基礎）①	講義・演習	PP、資料																																																																																	
8	16	カウンセリングのスキル（傾聴の基礎）②	講義・演習	PP、資料																																																																																	
9	18	カウンセリングのスキル（傾聴の応用）①	講義・演習	PP、資料																																																																																	
10	20	カウンセリングのスキル（傾聴の応用）②	講義・演習	PP、資料																																																																																	
11	22	アサーティブ・コミュニケーション①	講義・演習	資料																																																																																	
12	24	アサーティブ・コミュニケーション②	講義・演習	資料																																																																																	
13	26	コーチング	講義・演習	資料																																																																																	
14	28	家族を含めた人間関係（家族システム）	講義・演習	資料																																																																																	
15	30	家族を含めた人間関係（遺族の心理とケア）	講義・演習	資料																																																																																	
<p>終講試験</p>																																																																																					
<p>&lt;事前学習&gt;</p>																																																																																					
<p>&lt;テキスト等の準備物品&gt;</p> <p>基礎分野 人間関係論 : 医学書院 他その都度紹介する</p>																																																																																					
<p>&lt;評価方法&gt; 感想・質問用紙をもって出欠確認</p> <p>出席状況 終講試験 演習参加態度</p>																																																																																					

科目名		時間数	単位	実施時期	講義担当者
看護英会話		15	1	1年次	ピーター・マカーン
<学習目標>					
1. 看護に関する医療用語について理解できる。 2. 外国人患者との意思疎通のための英会話を学ぶことができる。					
<授業計画>					
回数	時間	学習内容		方法	備考(教材等)
1	2	Unit 1 & 2	May I ask your name? / Where are you from? / What do you do? / May I ask how old you are?	講義	
2	4	Unit 3 & 4	Could you tell me your address, please? / Is What department do you want to visit?	講義	
3	6	Unit 5	Where is the X-ray department? / Go straight	講義	
4	8	Unit 6	What's the matter / What are your symptoms?	講義	
5	10	Unit 7 & 8	Where does it hurt? / What kind of pain is it? Have you ever had any serious illnesses?	講義	
6	12	Unit 9 & 10	Take these tablets after meals Let me make an appointment for your test	講義	
7	14	Unit 11 & 12	Your surgery will be tomorrow How are you feeling today?	講義	
8	16				
9	18				
10	20				
11	22				
12	24				
13	26				
14	28				
15	30				
終講試験					
<事前学習>					
<テキスト等の準備物品>					
クリスティーンのやさしい看護英会話：医学書院					
<評価方法>					
筆記試験                  ポストテスト（英会話）					

科目名		時間数	単位	実施時期	講義担当者																																																																																
運動と健康		15	1	1年次	佐久間 貞典 病院で健康運動指導士として勤務経験あり																																																																																
<学習目標> 1. 健康の保持増進のための運動の知識と基礎的な実践能力を養うことができる。																																																																																					
<授業計画> <table border="1"> <thead> <tr> <th>回数</th> <th>時間</th> <th>学習内容</th> <th>方法</th> <th>備考 (教材等)</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>2</td> <td>オリエンテーション</td> <td>講義・演習</td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td>4</td> <td>医療従事者の障害とボディーメンテナンス術</td> <td>講義・演習</td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td>6</td> <td>ボディーアセスメント法とボディーメイク術</td> <td>講義・演習</td> <td></td> </tr> <tr> <td>4</td> <td>8</td> <td>ライフステージ別運動支援の実例</td> <td>講義・演習</td> <td></td> </tr> <tr> <td>5</td> <td>10</td> <td>災害時の運動支援</td> <td>講義・演習</td> <td></td> </tr> <tr> <td>6</td> <td>12</td> <td>運動療法の基本と実際 (1)</td> <td>演習</td> <td></td> </tr> <tr> <td>7</td> <td>14</td> <td>運動療法の基本と実際 (2)</td> <td>演習</td> <td></td> </tr> <tr> <td>8</td> <td>16</td> <td>まとめ</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>9</td> <td>18</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>10</td> <td>20</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>11</td> <td>22</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>12</td> <td>24</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>13</td> <td>26</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>14</td> <td>28</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>15</td> <td>30</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>						回数	時間	学習内容	方法	備考 (教材等)	1	2	オリエンテーション	講義・演習		2	4	医療従事者の障害とボディーメンテナンス術	講義・演習		3	6	ボディーアセスメント法とボディーメイク術	講義・演習		4	8	ライフステージ別運動支援の実例	講義・演習		5	10	災害時の運動支援	講義・演習		6	12	運動療法の基本と実際 (1)	演習		7	14	運動療法の基本と実際 (2)	演習		8	16	まとめ			9	18				10	20				11	22				12	24				13	26				14	28				15	30			
回数	時間	学習内容	方法	備考 (教材等)																																																																																	
1	2	オリエンテーション	講義・演習																																																																																		
2	4	医療従事者の障害とボディーメンテナンス術	講義・演習																																																																																		
3	6	ボディーアセスメント法とボディーメイク術	講義・演習																																																																																		
4	8	ライフステージ別運動支援の実例	講義・演習																																																																																		
5	10	災害時の運動支援	講義・演習																																																																																		
6	12	運動療法の基本と実際 (1)	演習																																																																																		
7	14	運動療法の基本と実際 (2)	演習																																																																																		
8	16	まとめ																																																																																			
9	18																																																																																				
10	20																																																																																				
11	22																																																																																				
12	24																																																																																				
13	26																																																																																				
14	28																																																																																				
15	30																																																																																				
終講試験																																																																																					
<事前学習>																																																																																					
<テキスト等の準備物品> なし																																																																																					
<評価方法> 終講試験 出席状況																																																																																					

科目名		時間数	単位	実施時期	講義担当者																																																																		
形態機能学		20	1	1年次	多々良 さつき																																																																		
<学習目標> 1. ひとが生命を営むために必要な細胞の働き、生活を支える人の器官の成り立ちについて説明することができる。 2. ひとの日常生活行動を支える形態と機能について実際の生活行動と結びつけて説明することができる。					病院で看護師として勤務経験あり																																																																		
<授業計画> <table border="1" style="width:100%; border-collapse: collapse;"> <thead> <tr> <th>回数</th> <th>時間</th> <th>学習内容</th> <th>方法</th> <th>備考(教材等)</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>2</td> <td>生命の誕生 細胞と器官の成り立ち 遺伝子・染色体の多様性</td> <td rowspan="15" style="text-align: center; vertical-align: middle;">講義</td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td>4</td> <td>発達する・成長する 生きる・生活するためのからだのしくみ (内部環境の恒常性と流通機構)</td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td>6</td> <td>” 生きる・生活するためのからだのしくみ (恒常性維持のための調節機構)</td> <td></td> </tr> <tr> <td>4</td> <td>8</td> <td>日常生活行動のからだのしくみ 目覚める、思考するとは 動く、活動するとは</td> <td></td> </tr> <tr> <td>5</td> <td>10</td> <td>” 息をする 食べるとは 排便・排尿するとは</td> <td></td> </tr> <tr> <td>6</td> <td>12</td> <td>” 休息する、眠るとは コミュニケーションをさせる機能とは</td> <td></td> </tr> <tr> <td>7</td> <td>14</td> <td>老化による体の変化と日常生活への影響 老化に伴う臓器、恒常性機能の変化 老化に伴う生活行動と機能の変化</td> <td></td> </tr> <tr> <td>8</td> <td>16</td> <td>からだを外敵から守るしくみ 止血のしくみ 免疫・炎症とは</td> <td></td> </tr> <tr> <td>9</td> <td>18</td> <td>からだを治すしくみ 傷害に対する細胞・組織の反応 腫瘍とは</td> <td></td> </tr> <tr> <td>10</td> <td>20</td> <td>いのちとは 「生物学的ないのち」の死 「ひと」が死ぬとは</td> <td></td> </tr> <tr> <td>11</td> <td>22</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>12</td> <td>24</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>13</td> <td>26</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>14</td> <td>28</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>15</td> <td>30</td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>						回数	時間	学習内容	方法	備考(教材等)	1	2	生命の誕生 細胞と器官の成り立ち 遺伝子・染色体の多様性	講義		2	4	発達する・成長する 生きる・生活するためのからだのしくみ (内部環境の恒常性と流通機構)		3	6	” 生きる・生活するためのからだのしくみ (恒常性維持のための調節機構)		4	8	日常生活行動のからだのしくみ 目覚める、思考するとは 動く、活動するとは		5	10	” 息をする 食べるとは 排便・排尿するとは		6	12	” 休息する、眠るとは コミュニケーションをさせる機能とは		7	14	老化による体の変化と日常生活への影響 老化に伴う臓器、恒常性機能の変化 老化に伴う生活行動と機能の変化		8	16	からだを外敵から守るしくみ 止血のしくみ 免疫・炎症とは		9	18	からだを治すしくみ 傷害に対する細胞・組織の反応 腫瘍とは		10	20	いのちとは 「生物学的ないのち」の死 「ひと」が死ぬとは		11	22			12	24			13	26			14	28			15	30		
回数	時間	学習内容	方法	備考(教材等)																																																																			
1	2	生命の誕生 細胞と器官の成り立ち 遺伝子・染色体の多様性	講義																																																																				
2	4	発達する・成長する 生きる・生活するためのからだのしくみ (内部環境の恒常性と流通機構)																																																																					
3	6	” 生きる・生活するためのからだのしくみ (恒常性維持のための調節機構)																																																																					
4	8	日常生活行動のからだのしくみ 目覚める、思考するとは 動く、活動するとは																																																																					
5	10	” 息をする 食べるとは 排便・排尿するとは																																																																					
6	12	” 休息する、眠るとは コミュニケーションをさせる機能とは																																																																					
7	14	老化による体の変化と日常生活への影響 老化に伴う臓器、恒常性機能の変化 老化に伴う生活行動と機能の変化																																																																					
8	16	からだを外敵から守るしくみ 止血のしくみ 免疫・炎症とは																																																																					
9	18	からだを治すしくみ 傷害に対する細胞・組織の反応 腫瘍とは																																																																					
10	20	いのちとは 「生物学的ないのち」の死 「ひと」が死ぬとは																																																																					
11	22																																																																						
12	24																																																																						
13	26																																																																						
14	28																																																																						
15	30																																																																						
終講試験																																																																							
<事前学習> 生物の基礎ワークシート      映像学習 (ビジュランサブスクの視聴)																																																																							
<テキスト等の準備物品> 人体の構造と機能③ 形態機能学 : メヂカルフレンド社																																																																							
<評価方法>																																																																							

科目名		時間数	単位	実施時期	講義担当者																																																																												
臨床栄養生化学		15	1	1年次	荻野美佐江 病院で管理栄養士として勤務経験あり																																																																												
<p>&lt;学習目標&gt;</p> <p>1. 体内で行われる食物の消化・吸収・代謝を学び、栄養状態の正常、異常を理解することができる。</p> <p>2. 栄養の適切な摂取と健康維持について理解し、各ライフサイクルにおいて起こりやすい栄養問題について学ぶことができる。</p> <p>3. 疾患を治療するための食事療法について理解することができる。</p>																																																																																	
<p>&lt;授業計画&gt;</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>回数</th> <th>時間</th> <th>学習内容</th> <th>方法</th> <th>備考（教材等）</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>2</td> <td rowspan="2">栄養生化学 糖質・脂質・タンパク質の栄養生化学 ビタミンの栄養生化学 ミネラルの栄養生化学</td> <td>講義</td> <td rowspan="2">*栄養の基本的な知識は事前学習のワークシートで確認する。</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td>4</td> <td>講義</td> </tr> <tr> <td>3</td> <td>6</td> <td>エネルギーの栄養生化学 呼吸とエネルギー産生／糖質・脂質・タンパク質代謝の相互の関連／エネルギー代謝異常と疾患</td> <td>講義</td> <td></td> </tr> <tr> <td>4</td> <td>8</td> <td>成長・生活と栄養 乳幼児、学童・青年期、成人期、妊産婦、高齢期の栄養と問題</td> <td>講義</td> <td></td> </tr> <tr> <td>5</td> <td>10</td> <td rowspan="3">食事療法 健康日本2 1 消化器系疾患 (胃潰瘍 クロウン病 肝硬変 膵炎) 内分泌代謝疾患(糖尿病 高脂血症) 循環器疾患(高血圧) 腎疾患(ネフローゼ症候群 腎不全)</td> <td>講義</td> <td></td> </tr> <tr> <td>6</td> <td>12</td> <td>講義</td> <td></td> </tr> <tr> <td>7</td> <td>14</td> <td>講義</td> <td></td> </tr> <tr> <td>8</td> <td>16</td> <td>多職種連携 栄養サポートチームの活動の実際</td> <td>講義</td> <td></td> </tr> <tr> <td>9</td> <td>18</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>10</td> <td>20</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>11</td> <td>22</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>12</td> <td>24</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>13</td> <td>26</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>14</td> <td>28</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>15</td> <td>30</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>						回数	時間	学習内容	方法	備考（教材等）	1	2	栄養生化学 糖質・脂質・タンパク質の栄養生化学 ビタミンの栄養生化学 ミネラルの栄養生化学	講義	*栄養の基本的な知識は事前学習のワークシートで確認する。	2	4	講義	3	6	エネルギーの栄養生化学 呼吸とエネルギー産生／糖質・脂質・タンパク質代謝の相互の関連／エネルギー代謝異常と疾患	講義		4	8	成長・生活と栄養 乳幼児、学童・青年期、成人期、妊産婦、高齢期の栄養と問題	講義		5	10	食事療法 健康日本2 1 消化器系疾患 (胃潰瘍 クロウン病 肝硬変 膵炎) 内分泌代謝疾患(糖尿病 高脂血症) 循環器疾患(高血圧) 腎疾患(ネフローゼ症候群 腎不全)	講義		6	12	講義		7	14	講義		8	16	多職種連携 栄養サポートチームの活動の実際	講義		9	18				10	20				11	22				12	24				13	26				14	28				15	30			
回数	時間	学習内容	方法	備考（教材等）																																																																													
1	2	栄養生化学 糖質・脂質・タンパク質の栄養生化学 ビタミンの栄養生化学 ミネラルの栄養生化学	講義	*栄養の基本的な知識は事前学習のワークシートで確認する。																																																																													
2	4		講義																																																																														
3	6	エネルギーの栄養生化学 呼吸とエネルギー産生／糖質・脂質・タンパク質代謝の相互の関連／エネルギー代謝異常と疾患	講義																																																																														
4	8	成長・生活と栄養 乳幼児、学童・青年期、成人期、妊産婦、高齢期の栄養と問題	講義																																																																														
5	10	食事療法 健康日本2 1 消化器系疾患 (胃潰瘍 クロウン病 肝硬変 膵炎) 内分泌代謝疾患(糖尿病 高脂血症) 循環器疾患(高血圧) 腎疾患(ネフローゼ症候群 腎不全)	講義																																																																														
6	12		講義																																																																														
7	14		講義																																																																														
8	16	多職種連携 栄養サポートチームの活動の実際	講義																																																																														
9	18																																																																																
10	20																																																																																
11	22																																																																																
12	24																																																																																
13	26																																																																																
14	28																																																																																
15	30																																																																																
<p>終講試験</p>																																																																																	
<p>&lt;事前学習&gt;</p> <p>・ワークシート：細胞の構造・DNA、RNAの構造・糖質の構造・脂質の構造・タンパク質の構造</p>																																																																																	
<p>&lt;テキスト等の準備物品&gt;</p> <p>人体の構造と機能② 栄養生化学：メヂカルフレンド社</p>																																																																																	
<p>&lt;評価方法&gt;</p> <p>筆記試験</p>																																																																																	

科目名		時間数	単位	実施時期	講義担当者																																																																														
臨床薬理学		30	1	1年次	宗田 一記																																																																														
<学習目標> 1. 薬物が作用する原理と作用に影響を与える要因を学ぶことができる。 2. 薬物による治療や予防についてその作用と影響を知り、薬物療法時の看護の役割を理解できる。 3. 薬物療法時に起こりやすい医療事故について考えることができる。					病院で薬剤師として勤務経験あり																																																																														
<授業計画> <table border="1" style="width:100%; border-collapse: collapse;"> <thead> <tr> <th>回数</th> <th>時間</th> <th>学習内容</th> <th>方法</th> <th>備考(教材等)</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>2</td> <td>生体機能と薬 生体の恒常性功能調節と薬物受容体 小児・妊婦・授乳婦・高齢者の薬物療法</td> <td>講義</td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td>4</td> <td>薬物療法の実際① 末梢神経作用薬(自律神経作用薬) 副交感神経作用薬(コリン・抗コリン作動薬) 筋弛緩薬</td> <td>講義</td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td>6</td> <td>薬物療法の実際② 中枢神経作用薬 全身麻酔薬 オピオイド鎮痛薬 麻薬</td> <td>講義</td> <td></td> </tr> <tr> <td>4</td> <td>8</td> <td>薬物療法の実際③ 中枢神経作用薬 抗認知症治療薬 抗精神薬 パーキンソン症候群治療薬</td> <td>講義</td> <td></td> </tr> <tr> <td>5</td> <td>10</td> <td>薬物療法の実際④ 心・血管系治療薬 降圧薬 (降圧利尿薬 交感神経抑制薬 Ca拮抗薬)</td> <td>講義</td> <td></td> </tr> <tr> <td>6</td> <td>12</td> <td>薬物療法の実際⑤ 心・血管系治療薬 抗狭心薬 強心薬 利尿薬</td> <td>講義</td> <td></td> </tr> <tr> <td>7</td> <td>14</td> <td>薬物療法の実際⑥ 血液作用薬 造血薬(鉄剤 エリスロポエチン等) 抗血栓薬 止血薬 血液製剤</td> <td>講義</td> <td></td> </tr> <tr> <td>8</td> <td>16</td> <td>薬物療法の実際⑦ 呼吸器系作用薬 - 気管支拡張薬 消化器系作用薬 - 潰瘍治療薬 緩下剤</td> <td>講義</td> <td></td> </tr> <tr> <td>9</td> <td>18</td> <td>薬物療法の実際⑧ 内分泌・代謝系作用薬 骨・カルシウム代謝薬 糖尿病治療薬</td> <td>講義</td> <td></td> </tr> <tr> <td>10</td> <td>20</td> <td>薬物療法の実際⑨ 抗感染症薬 - 基礎知識 抗腫瘍薬 - 抗腫瘍薬の作用部位・使い方</td> <td>講義</td> <td>*化学療法時看護は、臨床看護総論で学ぶ</td> </tr> <tr> <td>11</td> <td>22</td> <td>薬物療法の実際⑩ 抗炎症薬・解熱鎮痛薬-副腎皮質ステロイド、NSAIDS 抗アレルギー薬・免疫抑制剤 漢方薬</td> <td>講義</td> <td></td> </tr> <tr> <td>12</td> <td>24</td> <td rowspan="2">薬物療法時における 看護師の役割</td> <td>薬物療法時の医師、薬剤師、看護師のそれぞれの役割 「薬物療法時の医師、薬剤師、看護師それぞれの 専門性を生かし、協力するとは」</td> <td>ディスカッション</td> </tr> <tr> <td>13</td> <td>26</td> <td>「薬物療法時における看護師の役割と責務」</td> <td>レポート</td> </tr> <tr> <td>14</td> <td>28</td> <td rowspan="2">薬物療法時に起こり やすい医療事故</td> <td>内服薬処方箋 内服与薬エラー 類似名称の内服薬 薬剤の単位エラー</td> <td></td> </tr> <tr> <td>15</td> <td>30</td> <td>外用薬 糖尿病治療薬(インスリン等) カリウム製剤 カテコールアミン</td> <td></td> </tr> </tbody> </table>						回数	時間	学習内容	方法	備考(教材等)	1	2	生体機能と薬 生体の恒常性功能調節と薬物受容体 小児・妊婦・授乳婦・高齢者の薬物療法	講義		2	4	薬物療法の実際① 末梢神経作用薬(自律神経作用薬) 副交感神経作用薬(コリン・抗コリン作動薬) 筋弛緩薬	講義		3	6	薬物療法の実際② 中枢神経作用薬 全身麻酔薬 オピオイド鎮痛薬 麻薬	講義		4	8	薬物療法の実際③ 中枢神経作用薬 抗認知症治療薬 抗精神薬 パーキンソン症候群治療薬	講義		5	10	薬物療法の実際④ 心・血管系治療薬 降圧薬 (降圧利尿薬 交感神経抑制薬 Ca拮抗薬)	講義		6	12	薬物療法の実際⑤ 心・血管系治療薬 抗狭心薬 強心薬 利尿薬	講義		7	14	薬物療法の実際⑥ 血液作用薬 造血薬(鉄剤 エリスロポエチン等) 抗血栓薬 止血薬 血液製剤	講義		8	16	薬物療法の実際⑦ 呼吸器系作用薬 - 気管支拡張薬 消化器系作用薬 - 潰瘍治療薬 緩下剤	講義		9	18	薬物療法の実際⑧ 内分泌・代謝系作用薬 骨・カルシウム代謝薬 糖尿病治療薬	講義		10	20	薬物療法の実際⑨ 抗感染症薬 - 基礎知識 抗腫瘍薬 - 抗腫瘍薬の作用部位・使い方	講義	*化学療法時看護は、臨床看護総論で学ぶ	11	22	薬物療法の実際⑩ 抗炎症薬・解熱鎮痛薬-副腎皮質ステロイド、NSAIDS 抗アレルギー薬・免疫抑制剤 漢方薬	講義		12	24	薬物療法時における 看護師の役割	薬物療法時の医師、薬剤師、看護師のそれぞれの役割 「薬物療法時の医師、薬剤師、看護師それぞれの 専門性を生かし、協力するとは」	ディスカッション	13	26	「薬物療法時における看護師の役割と責務」	レポート	14	28	薬物療法時に起こり やすい医療事故	内服薬処方箋 内服与薬エラー 類似名称の内服薬 薬剤の単位エラー		15	30	外用薬 糖尿病治療薬(インスリン等) カリウム製剤 カテコールアミン	
回数	時間	学習内容	方法	備考(教材等)																																																																															
1	2	生体機能と薬 生体の恒常性功能調節と薬物受容体 小児・妊婦・授乳婦・高齢者の薬物療法	講義																																																																																
2	4	薬物療法の実際① 末梢神経作用薬(自律神経作用薬) 副交感神経作用薬(コリン・抗コリン作動薬) 筋弛緩薬	講義																																																																																
3	6	薬物療法の実際② 中枢神経作用薬 全身麻酔薬 オピオイド鎮痛薬 麻薬	講義																																																																																
4	8	薬物療法の実際③ 中枢神経作用薬 抗認知症治療薬 抗精神薬 パーキンソン症候群治療薬	講義																																																																																
5	10	薬物療法の実際④ 心・血管系治療薬 降圧薬 (降圧利尿薬 交感神経抑制薬 Ca拮抗薬)	講義																																																																																
6	12	薬物療法の実際⑤ 心・血管系治療薬 抗狭心薬 強心薬 利尿薬	講義																																																																																
7	14	薬物療法の実際⑥ 血液作用薬 造血薬(鉄剤 エリスロポエチン等) 抗血栓薬 止血薬 血液製剤	講義																																																																																
8	16	薬物療法の実際⑦ 呼吸器系作用薬 - 気管支拡張薬 消化器系作用薬 - 潰瘍治療薬 緩下剤	講義																																																																																
9	18	薬物療法の実際⑧ 内分泌・代謝系作用薬 骨・カルシウム代謝薬 糖尿病治療薬	講義																																																																																
10	20	薬物療法の実際⑨ 抗感染症薬 - 基礎知識 抗腫瘍薬 - 抗腫瘍薬の作用部位・使い方	講義	*化学療法時看護は、臨床看護総論で学ぶ																																																																															
11	22	薬物療法の実際⑩ 抗炎症薬・解熱鎮痛薬-副腎皮質ステロイド、NSAIDS 抗アレルギー薬・免疫抑制剤 漢方薬	講義																																																																																
12	24	薬物療法時における 看護師の役割	薬物療法時の医師、薬剤師、看護師のそれぞれの役割 「薬物療法時の医師、薬剤師、看護師それぞれの 専門性を生かし、協力するとは」	ディスカッション																																																																															
13	26		「薬物療法時における看護師の役割と責務」	レポート																																																																															
14	28	薬物療法時に起こり やすい医療事故	内服薬処方箋 内服与薬エラー 類似名称の内服薬 薬剤の単位エラー																																																																																
15	30		外用薬 糖尿病治療薬(インスリン等) カリウム製剤 カテコールアミン																																																																																
終講試験																																																																																			
<事前学習> ・薬に関する基礎知識のワークシート (医薬品について含む)																																																																																			
<テキスト等の準備物品> 新体系看護学全集 薬理学 メヂカルフレンド社																																																																																			
<評価方法> 事前課題(ワークシート) 出席状況 筆記試験 課題レポート																																																																																			

科目名		時間数	単位	実施時期	講義担当者
病気の発生とメカニズム		15	1	1年次	寺西 寧
<学習目標> 1. 身体を構成している細胞・組織・器官の正常な形態や生理機能を理解することができる。 2. 症状や徴候といった病的な状態が引き起こされるメカニズムを理解することができる。 3. 様々な病因によって引き起こされる疾患の病態を理解することができる。					病院で医師として勤務経験あり
<授業計画>					
回数	時間	学習内容		方法	備考（教材等）
1	2	病理学総論	病気と病理学 老化と死 : 老化現象と病気の関係	講義	
2	4		組織・細胞に生じる異常と修復	講義	
3	6		炎症 免疫とその異常 止血と循環	講義	
4	8		先天異常 感染症 環境による疾患	講義	
5	10		癌 生活習慣病 難病	講義	
6	12	病理学各論	消化管の疾患	講義	
7	14			講義	
8	16				
9	18				
10	20				
11	22				
12	24				
13	26				
14	28				
15	30				
終講試験					
<事前学習>					
<テキスト等の準備物品>					
病理学 : メヂカルフレンド社					
<評価方法>					
終講試験 出席状況					

科目名		時間数	単位	実施時期	講義担当者
感染制御学		30	1	1年次	芝 文彦
<学習目標> 1. 微生物の分類や性質を理解することができる。 2. 微生物が持つ病原性をしり、人間の感染防御機構について理解することができる。 3. 様々な感染予防策を理解し、感染制御を实践できる能力を養うことができる。					
<授業計画>					
回数	時間	学習内容		方法	備考（教材等）
1	2	感染とその予防の基礎知識①	感染成立の条件 看護師のリスク 院内感染 標準予防策（手指衛生、PPE、飛沫・空気予防策） 感染廃棄物の取り扱い	講義	*看護技術のテキスト参照 講義担当：教員
2	4	感染とその予防の基礎知識②	洗浄・消毒・滅菌 消毒薬 無菌操作	講義	講義担当：教員
3	6	感染防止対策の実際	①手指衛生 PPEの着脱 マスクのつけ方 ②滅菌操作 ・滅菌バックの開封 ・滅菌包装の開封 ・滅菌物の取り扱い ・滅菌手袋の着用	演習	講義担当：教員 準備物品 グリッターバグ 滅菌セット
4	8			演習	
5	10			演習	
6	12	微生物と感染症	(1)微生物の分類 (2)感染症の分類 (3)病原性と発症	講義	テキスト・PPT資料
7	14	微生物による感染機序	(1)細菌・真菌の感染機序 (2) ウイルスの感染機序 (3) その他の病原体の感染機序	講義	テキスト・PPT資料
8	16	細菌による感染症	(1) グラム陰性菌による感染症 (2) 薬剤耐性菌による感染事例 (3) グラム陽性菌による感染症	講義	テキスト・PPT資料
9	18	ウイルスによる感染症	(1)DNAウイルスによる感染症 (2) RNAウイルスによる感染症 (3)COVID19による感染事例	講義	テキスト・PPT資料
10	20	他の病原体による感染症	(1)マイコプラズマ(2)原虫 (3)リケッチア(4)クラミジア (5)プリオン (6) マダニによる感染事例	講義	テキスト・PPT資料
11	22	免疫の仕組みと種類 1	(1) 抗原・抗体反応と免疫応答 (2)免疫担当細胞(3)自然免疫 (4) 液性免疫と細胞性免疫	講義	テキスト・PPT資料
12	24	免疫の仕組みと種類 2	(1) ワクチンの種類と効果 (2) COVID19 のワクチンによる予防 (3) COVID19 の検査	講義	テキスト・PPT資料
13	26	感染症の検査・診断と治療	(1) 非特異反応による検査 (2) 病原体特異反応による検査 (3) 抗菌薬 (4) 抗ウイルス薬	講義	テキスト・PPT資料
14	28	感染制御 1	(1) 市中感染と感染予防策 (2) 院内感染と感染予防策 (3) 隔離と検査(4)感染症法	講義	テキスト・PPT資料
15	30	感染制御 2	(1) 感染経路別の感染予防策 (2) 消毒と滅菌 (3) COVID19の感染予防・治療対策事例	講義	テキスト・PPT資料
終講試験					
<事前学習> 感染防止のワークシート					
<テキスト等の準備物品> 看護学テキスト 微生物学・感染制御学 : 南江堂					
<評価方法> 終講試験 出席状況					

科目名		時間数	単位	実施時期	講義担当者
形態機能学 I (呼吸器・循環器)		30	1	1年次	藤生 浩一 小野 正博
<学習目標> 1. 呼吸器・循環器の構造と機能を知り、症状とそのメカニズムを理解することができる。 2. 呼吸器・循環器疾患にかかわる診察・検査・処置等について理解することができる。 3. 主な呼吸器・循環器疾患の原因・症状・治療について理解し、看護実践の科学的根拠と結び付けて考えることができる。					病院で医師として勤務経験あり
<授業計画>					
回数	時間	学習内容	方法	備考 (教材等)	
1	2	呼吸器の構造と機能	呼吸器疾患の近年の動向 呼吸器疾患をもつ患者の特徴 呼吸器の構造 (気道 肺 血管系の構造 胸腔 胸膜) 呼吸器の機能 (呼吸調節 換気メカニズム ガス交換 酸塩基平衡)	講義	藤生 浩一
2	4		講義		
3	6	呼吸器の症状と病態生理	呼吸不全 呼吸困難 胸痛 咳嗽 喀痰 呼吸音 血痰・喀血 チアノーゼ そのほかの症状	講義	↓
4	8	呼吸器疾患にかかわる診察・検査	血液検査 喀痰検査 胸腔穿刺 肺生検 血ガス分析 呼吸機能検査 (フローボリューム スパイロ等) 画像検査 (X線検査 胸部CT 等) 内視鏡 睡眠呼吸モニタリング	講義	
5	10		講義		
6	12	主な呼吸器疾患と治療	呼吸器系感染症 (気管支炎 肺炎 肺結核) 気道疾患 (COPD 気管支喘息) 胸膜疾患 (胸膜炎 気胸) 間質性肺炎 肺腫瘍 換気異常 肺循環障害 (肺血栓塞栓症 肺高血圧)	講義	
7	14		講義		
8	16	循環器の構造と機能	循環器疾患の特性と近年の動向 心臓の構造と機能 (刺激伝導系 電気的活動 活動電位 カルシウムイオンの役割など) 脈管系の構造と機能 (血管系・リンパ系 血管の構造 静脈血の還流)	講義	小野 正博
9	18		講義		
10	20	循環器の症状と病態生理	胸痛 呼吸困難 動悸 意識消失 チアノーゼ浮腫 頸静脈怒張 ショック	講義	↓
11	22	循環器疾患にかかわる診察・検査	心電図 (波形の意義 心電図の読み方 異常波形) 負荷心電図 ホルター心電図 画像検査 (X線検査 心エコーなど) 心臓カテーテル (スワンガンツカテーテル) 血行動態モニタリング	講義	
12	24		講義		
13	26	主な循環器疾患と治療	心不全 (急性心不全 慢性心不全) 心タンポナーデ 虚血性心疾患 (狭心症 急性冠症候群) 心筋症 (肥大型心筋症 拡張型心筋症) 不整脈 (上室性頻脈性不整脈 心室性頻脈性不整脈 徐脈性不整脈) ショック (心原性 出血性) 弁膜症 大動脈瘤 深部静脈血栓症 動脈硬化 高血圧 (本態性 二次性) 閉塞性動脈硬化症	講義	
14	28		講義		
15	30		講義		
終講試験					
<事前学習>					
<テキスト等の準備物品>					
成人看護学②呼吸器 ③循環器 : メヂカルフレンド社					
<評価方法>					
筆記試験					

科目名		時間数	単位	実施時期	講義担当者																																																																												
形態機能学Ⅱ（消化器）		15	1	1年次	間 浩正																																																																												
<学習目標> 1. 消化器の構造と機能を知り、症状とそのメカニズムを理解することができる。 2. 消化器疾患にかかわる診察・検査・処置等について理解することができる。 3. 主な消化器疾患の原因・症状・治療について理解し、看護実践の科学的根拠と結び付けて考えることができる。					病院で医師として勤務経験あり																																																																												
<授業計画> <table border="1" style="width:100%; border-collapse: collapse;"> <thead> <tr> <th>回数</th> <th>時間</th> <th>学習内容</th> <th>方法</th> <th>備考（教材等）</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>2</td> <td>消化器の構造と機能 症状と病態生理</td> <td>講義</td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td>4</td> <td rowspan="2">消化器疾患にかかわる診察・検査</td> <td>講義</td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td>6</td> <td>講義</td> <td></td> </tr> <tr> <td>4</td> <td>8</td> <td rowspan="4">主な消化器疾患と治療</td> <td>講義</td> <td></td> </tr> <tr> <td>5</td> <td>10</td> <td>講義</td> <td></td> </tr> <tr> <td>6</td> <td>12</td> <td>講義</td> <td></td> </tr> <tr> <td>7</td> <td>14</td> <td>講義</td> <td></td> </tr> <tr> <td>8</td> <td>16</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>9</td> <td>18</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>10</td> <td>20</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>11</td> <td>22</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>12</td> <td>24</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>13</td> <td>26</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>14</td> <td>28</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>15</td> <td>30</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>						回数	時間	学習内容	方法	備考（教材等）	1	2	消化器の構造と機能 症状と病態生理	講義		2	4	消化器疾患にかかわる診察・検査	講義		3	6	講義		4	8	主な消化器疾患と治療	講義		5	10	講義		6	12	講義		7	14	講義		8	16				9	18				10	20				11	22				12	24				13	26				14	28				15	30			
回数	時間	学習内容	方法	備考（教材等）																																																																													
1	2	消化器の構造と機能 症状と病態生理	講義																																																																														
2	4	消化器疾患にかかわる診察・検査	講義																																																																														
3	6		講義																																																																														
4	8	主な消化器疾患と治療	講義																																																																														
5	10		講義																																																																														
6	12		講義																																																																														
7	14		講義																																																																														
8	16																																																																																
9	18																																																																																
10	20																																																																																
11	22																																																																																
12	24																																																																																
13	26																																																																																
14	28																																																																																
15	30																																																																																
終講試験																																																																																	
<事前学習>																																																																																	
<テキスト等の準備物品>																																																																																	
成人看護学⑤ 消化器 : メヂカルフレンド社																																																																																	
<評価方法>																																																																																	
筆記試験																																																																																	

科目名		時間数	単位	実施時期	講義担当者
形態機能学Ⅲ（脳・神経／運動器）		30	1	1年次	小林 亨 荒井 至 竹中信之
<学習目標> 1. 脳・神経、運動器の構造と機能を知り、症状とそのメカニズムを理解することができる。 2. 脳・神経、運動器疾患にかかわる診察・検査・処置等について理解することができる。 3. 主な脳・神経、運動器疾患の原因・症状・治療について理解し、看護実践の科学的根拠と結び付けて考えることができる。					病院で医師として勤務経験あり
<授業計画>					
回数	時間	学習内容	方法	備考（教材等）	
1	2	脳・神経の構造と機能 神経組織の構造 刺激伝達のしくみ 中枢神経系・末梢神経系の構造としくみ 神経系ネットワークのしくみ 循環系ネットワークのしくみ	講義	小林 亨	
2	4		講義		
3	6	脳・神経の症状と病態生理 意識障害（除皮質硬直 除脳硬直）高次機能障害 運動機能に関連する異常 脳死 顔面神経麻痺 髄膜刺激症状 頭蓋内圧亢進症状と脳ヘルニア 視力・視野障害 瞳孔異常 感覚異常	講義		
4	8		講義		
5	10	脳・神経疾患にかかわる診察・検査 全身診察法 神経学的診察法 検体検査（脳脊髄液）生理学的検査 画像診断	講義		
6	12	脳・神経の疾患と治療 脳・脊髄の循環障害（脳血管障害と危険因子 脳梗塞 TIA 脳出血 くも膜下出血 もやもや病） 脳・脊髄の感染症・炎症疾患 認知症 脳・脊髄の変性疾患（アルツハイマー型 パーキンソン病 筋萎縮性側索硬化症） てんかん 自律神経失調症 心身症 脳腫瘍 脳脊髄液の圧・還流生涯 脊髄損傷 重症筋無力症 単ニューロパチー 硬膜下血腫 硬膜外血腫	講義		
7	14		講義		
8	16		講義	↓	
9	18	運動器の構造と機能 骨の構造と機能 関節の構造と機能 筋肉の構造と機能 腱・靭帯の構造と機能 神経の構造と機能 脊柱の構造と機能	講義	荒井 至	
10	20		講義		
11	22	運動器の症状と病態生理 疼痛 関節運動の異常 神経・筋肉の障害 形態異常（奇形・先天性変形、変形）歩行障害	講義		
12	24	運動器にかかわる診察・検査 身体所見 関節可動域の測定 神経学的診察法 画像検査 骨密度 関節鏡 脳脊髄液検査	講義	↓	
13	26	運動器の疾患と治療 骨折（分類 治癒過程と病態生理 症状 合併症） （上腕骨骨折 大腿骨骨折 小児骨折の特徴） 捻挫・打撲（靭帯損傷）脱臼 脊椎の疾患（椎間板ヘルニア 脊髄・脊椎損傷） 筋・腱の疾患（筋ジストロフィー） 骨・関節の炎症性疾患（骨髄炎 関節リウマチ 変形性関節症） 骨腫瘍（骨肉腫） 骨粗しょう症 ロコモティブ	講義	竹中 信之	
14	28		講義		
15	30		講義	↓	
終講試験					
<事前学習>					
<テキスト等の準備物品>					
成人看護学⑥脳・神経 成人看護学⑩運動器 : メヂカルフレンド社					
<評価方法>					
終講試験					

科目名		時間数	単位	実施時期	講義担当者																																																																																						
形態機能学Ⅳ（腎泌尿器／女性生殖器／感覚器）		30	1	1年次	橋本 樹 田中 勝彦 大槻好正 外島 寛朗																																																																																						
<学習目標> 1. 腎泌尿器、女性生殖器、感覚器の構造と機能を知り、症状とそのメカニズムを理解することができる。 2. 腎泌尿器、女性生殖器、感覚器の疾患にかかわる診察・検査・処置等について理解することができる。 3. 主な腎泌尿器、女性生殖器、感覚器の疾患の原因・症状・治療について理解し、看護実践の科学的根拠と結び付けて考えることができる。					病院で医師等として勤務経験あり																																																																																						
<授業計画> <table border="1" style="width:100%; border-collapse: collapse;"> <thead> <tr> <th>回数</th> <th>時間</th> <th>学習内容</th> <th>方法</th> <th>備考（教材等）</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>2</td> <td rowspan="2">腎・泌尿器の構造と機能 腎臓の構造と機能 尿管の構造と機能 膀胱の構造と機能 尿道の構造と機能 男性生殖器の構造と機能</td> <td>講義</td> <td rowspan="15">橋本 樹</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td>4</td> <td>講義</td> </tr> <tr> <td>3</td> <td>6</td> <td>腎・泌尿器の症状と病態生理 浮腫 脱水 電解質の異常 酸塩基平衡の障害 血液異常 排尿の異常 尿の異常 疼痛</td> <td>講義</td> </tr> <tr> <td>4</td> <td>8</td> <td>腎・泌尿器疾患にかかわる検査・処置 尿検査 腎機能検査 画像検査 内視鏡検査 尿流動態検査</td> <td>講義</td> </tr> <tr> <td>5</td> <td>10</td> <td rowspan="3">腎・泌尿器の疾患と治療 系球体疾患（糸球体腎炎 IgA腎症 ネフローゼ症候群 糖尿病性腎炎） 腎不全（急性腎障害 急性腎不全 慢性腎不全 慢性腎臓病） 尿路の疾患（尿路結石症 水腎症 腎盂腎炎 膀胱炎 尿路感染症） 尿路・男性生殖器の腫瘍（腎細胞がん 膀胱がん 前立腺がん 前立腺肥大症） *透析治療については臨床看護総論で履修する。</td> <td>講義</td> </tr> <tr> <td>6</td> <td>12</td> <td>講義</td> </tr> <tr> <td>7</td> <td>14</td> <td>講義</td> </tr> <tr> <td>8</td> <td>16</td> <td>女性生殖器の構造と機能 外性器・内性器の構造 骨盤底の構造 女性生殖器の機能（女性ホルモンと機能）</td> <td>講義</td> <td rowspan="4">田中 勝彦  *乳がんについては特別講義で学ぶ</td> </tr> <tr> <td>9</td> <td>18</td> <td>女性生殖器疾患の症状と病態生理、検査、治療 内分泌の異常（月経異常） 女性のライフサイクルの変化 （思春期の異常 PMS 月経困難症 更年期障害） 性器の炎症、感染症（膣炎 クラミジアほか） 子宮疾患（内膜症 筋腫 体癌・頸癌 胎状奇胎） 卵巣疾患（卵巣腫瘍） 不妊症 治療（子宮全摘術 放射線治療）</td> <td>講義</td> </tr> <tr> <td>10</td> <td>20</td> <td>講義</td> </tr> <tr> <td>11</td> <td>22</td> <td>講義</td> </tr> <tr> <td>12</td> <td>24</td> <td rowspan="2">耳鼻咽喉 耳鼻咽喉の構造と機能 耳鼻咽喉の症状と病態生理、検査（難聴 鼻出血めまい 嚥下障害） 耳鼻咽喉疾患と治療（メニエール病 中耳炎 扁桃炎咽頭扁桃肥大 咽頭がん 喉頭がん）</td> <td>講義</td> <td rowspan="2">大槻好正</td> </tr> <tr> <td>13</td> <td>26</td> <td>講義</td> </tr> <tr> <td>14</td> <td>28</td> <td rowspan="2">歯・口腔 歯・口腔の構造と機能 歯・口腔の症状と病態生理 検査 小児・老年期の口腔内・歯の特徴など 歯・口腔疾患と治療 （齲歯 歯周病 感染症など） ブラッシング・入れ歯の仕方など</td> <td>講義</td> <td rowspan="2">外島 寛朗 *8020運動などの取り組みも含む</td> </tr> <tr> <td>15</td> <td>30</td> <td>講義</td> </tr> <tr> <td colspan="6" style="text-align: center;">終講試験</td> </tr> <tr> <td colspan="6">           &lt;事前学習&gt;         </td> </tr> <tr> <td colspan="6">           &lt;テキスト等の準備物品&gt;            成人看護⑦腎・泌尿器 ⑩女性生殖器 ⑬耳鼻咽喉／歯・口腔 : メヂカルフレンド社         </td> </tr> <tr> <td colspan="6">           &lt;評価方法&gt;            筆記試験         </td> </tr> </tbody> </table>						回数	時間	学習内容	方法	備考（教材等）	1	2	腎・泌尿器の構造と機能 腎臓の構造と機能 尿管の構造と機能 膀胱の構造と機能 尿道の構造と機能 男性生殖器の構造と機能	講義	橋本 樹	2	4	講義	3	6	腎・泌尿器の症状と病態生理 浮腫 脱水 電解質の異常 酸塩基平衡の障害 血液異常 排尿の異常 尿の異常 疼痛	講義	4	8	腎・泌尿器疾患にかかわる検査・処置 尿検査 腎機能検査 画像検査 内視鏡検査 尿流動態検査	講義	5	10	腎・泌尿器の疾患と治療 系球体疾患（糸球体腎炎 IgA腎症 ネフローゼ症候群 糖尿病性腎炎） 腎不全（急性腎障害 急性腎不全 慢性腎不全 慢性腎臓病） 尿路の疾患（尿路結石症 水腎症 腎盂腎炎 膀胱炎 尿路感染症） 尿路・男性生殖器の腫瘍（腎細胞がん 膀胱がん 前立腺がん 前立腺肥大症） *透析治療については臨床看護総論で履修する。	講義	6	12	講義	7	14	講義	8	16	女性生殖器の構造と機能 外性器・内性器の構造 骨盤底の構造 女性生殖器の機能（女性ホルモンと機能）	講義	田中 勝彦  *乳がんについては特別講義で学ぶ	9	18	女性生殖器疾患の症状と病態生理、検査、治療 内分泌の異常（月経異常） 女性のライフサイクルの変化 （思春期の異常 PMS 月経困難症 更年期障害） 性器の炎症、感染症（膣炎 クラミジアほか） 子宮疾患（内膜症 筋腫 体癌・頸癌 胎状奇胎） 卵巣疾患（卵巣腫瘍） 不妊症 治療（子宮全摘術 放射線治療）	講義	10	20	講義	11	22	講義	12	24	耳鼻咽喉 耳鼻咽喉の構造と機能 耳鼻咽喉の症状と病態生理、検査（難聴 鼻出血めまい 嚥下障害） 耳鼻咽喉疾患と治療（メニエール病 中耳炎 扁桃炎咽頭扁桃肥大 咽頭がん 喉頭がん）	講義	大槻好正	13	26	講義	14	28	歯・口腔 歯・口腔の構造と機能 歯・口腔の症状と病態生理 検査 小児・老年期の口腔内・歯の特徴など 歯・口腔疾患と治療 （齲歯 歯周病 感染症など） ブラッシング・入れ歯の仕方など	講義	外島 寛朗 *8020運動などの取り組みも含む	15	30	講義	終講試験						<事前学習>						<テキスト等の準備物品> 成人看護⑦腎・泌尿器 ⑩女性生殖器 ⑬耳鼻咽喉／歯・口腔 : メヂカルフレンド社						<評価方法> 筆記試験					
回数	時間	学習内容	方法	備考（教材等）																																																																																							
1	2	腎・泌尿器の構造と機能 腎臓の構造と機能 尿管の構造と機能 膀胱の構造と機能 尿道の構造と機能 男性生殖器の構造と機能	講義	橋本 樹																																																																																							
2	4		講義																																																																																								
3	6	腎・泌尿器の症状と病態生理 浮腫 脱水 電解質の異常 酸塩基平衡の障害 血液異常 排尿の異常 尿の異常 疼痛	講義																																																																																								
4	8	腎・泌尿器疾患にかかわる検査・処置 尿検査 腎機能検査 画像検査 内視鏡検査 尿流動態検査	講義																																																																																								
5	10	腎・泌尿器の疾患と治療 系球体疾患（糸球体腎炎 IgA腎症 ネフローゼ症候群 糖尿病性腎炎） 腎不全（急性腎障害 急性腎不全 慢性腎不全 慢性腎臓病） 尿路の疾患（尿路結石症 水腎症 腎盂腎炎 膀胱炎 尿路感染症） 尿路・男性生殖器の腫瘍（腎細胞がん 膀胱がん 前立腺がん 前立腺肥大症） *透析治療については臨床看護総論で履修する。	講義																																																																																								
6	12		講義																																																																																								
7	14		講義																																																																																								
8	16	女性生殖器の構造と機能 外性器・内性器の構造 骨盤底の構造 女性生殖器の機能（女性ホルモンと機能）	講義		田中 勝彦  *乳がんについては特別講義で学ぶ																																																																																						
9	18	女性生殖器疾患の症状と病態生理、検査、治療 内分泌の異常（月経異常） 女性のライフサイクルの変化 （思春期の異常 PMS 月経困難症 更年期障害） 性器の炎症、感染症（膣炎 クラミジアほか） 子宮疾患（内膜症 筋腫 体癌・頸癌 胎状奇胎） 卵巣疾患（卵巣腫瘍） 不妊症 治療（子宮全摘術 放射線治療）	講義																																																																																								
10	20	講義																																																																																									
11	22	講義																																																																																									
12	24	耳鼻咽喉 耳鼻咽喉の構造と機能 耳鼻咽喉の症状と病態生理、検査（難聴 鼻出血めまい 嚥下障害） 耳鼻咽喉疾患と治療（メニエール病 中耳炎 扁桃炎咽頭扁桃肥大 咽頭がん 喉頭がん）	講義		大槻好正																																																																																						
13	26		講義																																																																																								
14	28	歯・口腔 歯・口腔の構造と機能 歯・口腔の症状と病態生理 検査 小児・老年期の口腔内・歯の特徴など 歯・口腔疾患と治療 （齲歯 歯周病 感染症など） ブラッシング・入れ歯の仕方など	講義		外島 寛朗 *8020運動などの取り組みも含む																																																																																						
15	30		講義																																																																																								
終講試験																																																																																											
<事前学習>																																																																																											
<テキスト等の準備物品> 成人看護⑦腎・泌尿器 ⑩女性生殖器 ⑬耳鼻咽喉／歯・口腔 : メヂカルフレンド社																																																																																											
<評価方法> 筆記試験																																																																																											

科目名		時間数	単位	実施時期	講義担当者
形態機能学Ⅴ（内分泌・代謝／感染症）		20	1	1年次	寺澤 崇
<学習目標> 1. 感染症、内分泌疾患の症状とそのメカニズムを理解することができる。 2. 感染症、内分泌疾患にかかわる診察・検査・処置等について理解することができる。 3. 主な感染症、内分泌疾患の原因・症状・治療について理解し、看護における科学的根拠と結び付けて考えることができる。					血液センターで技術部長として勤務経験あり
<授業計画>					
回数	時間	学習内容	方法	備考（教材等）	
1	2	主な感染症疾患と治療	日和見感染 院内感染 敗血症 性感染症 MRSA 蜂窩織炎 ボツリヌス菌 腸管出血性大腸菌 レジオネラ菌 梅毒 ノロウイルス感染症 単純ヘルペスウイルス感染症 水痘／带状疱疹 伝染性単核球症 HIV感染症	講義	*感染の成立、感染を起こす微生物、生体防御機構は感染制御学で履修する
2	4		講義		
3	6	内分泌器官の構造と機能	視床下部・下垂体の構造と機能 甲状腺、副甲状腺の構造と機能 副腎皮質・髄質の構造と機能 消化管ホルモン分泌器官の構造と機能 性腺・乳腺の構造と機能	講義	
4	8		講義		
5	10	内分泌疾患にかかわる検査・処置	内分泌機能検査 ホルモン負荷試験 甲状腺シンチ	講義	
6	12	主な内分泌疾患と治療	視床下部・下垂体疾患（先端巨大症 尿崩症 クッシング症候群など） 甲状腺疾患（バセドウ病 クレチン症 橋本病 甲状腺がん） 副甲状腺疾患（機能亢進症 機能低下症など） 副腎皮質・髄質疾患（クッシング症候群 アルドステロン症 アジソン病）	講義	
7	14		講義		
8	16		講義		
9	18	栄養・代謝疾患	糖尿病（病態生理 症状 検査 治療） 脂質代謝異常 肥満 メタボリックシンドローム 痛風 栄養の異常（ナトリウム代謝異常 カリウム代謝異常 カルシウム代謝異常）	講義	
10	20			講義	
11	22			講義	
12	24			講義	
13	26			講義	
14	28			講義	
15	30			講義	
終講試験					
<事前学習> ビジュランサブスクの視聴					
<テキスト等の準備物品> 成人看護学⑧内分泌／栄養・代謝 成人看護学⑨感染症／アレルギー・免疫／膠原病：メヂカルフレンド社					
<評価方法> 筆記試験					

科目名		時間数	単位	実施時期	講義担当者
形態機能学VI (アレルギー・免疫/膠原病/血液・造血器)		20	1	1年次	寺澤 崇
<p>&lt;学習目標&gt;</p> <p>1. アレルギー・免疫疾患、血液・造血器疾患の症状とそのメカニズムを理解することができる。</p> <p>2. アレルギー・免疫疾患、血液・造血器疾患にかかわる診察・検査・処置等について理解することができる。</p> <p>3. 主なアレルギー・免疫疾患、血液・造血器疾患の原因・症状・治療について理解し、看護における科学的根拠と結び付けて考えることができる。</p> <p>&lt;授業計画&gt;</p>					血液センターで技術部長として勤務経験あり
回数	時間	学習内容		方法	備考 (教材等)
1	2	アレルギー・免疫の基礎知識	免疫反応 (2つの免疫系 免疫機能に重要な細胞 免疫系活性化の機序)	講義	
2	4		アレルギー反応のしくみと分類 (I型～IV型アレルギー) 生体防御機構	講義	
3	6	アレルギー疾患と検査・治療	蕁麻疹 接触皮膚炎 アトピー性皮膚炎 アナフィラキシー	講義	
4	8	膠原病の疾患と治療	膠原病発症のしくみ 関節リウマチ SLE シェーグレン症候群 ベーチェット病	講義	
5	10	血液・造血器の構造と機能	血液の成分と機能 (赤血球 白血球 血小板 血漿)	講義	
6	12		止血機構 造血：血球産生の機序	講義	
7	14	血液・造血器の疾患と検査・治療	検査 (血液検査 骨髄穿刺) 治療 (造血幹細胞移植 輸血療法) 鉄欠乏性貧血 巨赤芽球貧血 再生不良性貧血	講義	*骨髄穿刺の看護は、基礎看護技術IVで履修
8	16		急性白血病 慢性骨髄性白血病 悪性リンパ腫	講義	*輸血時の看護は、基礎看護技術IVで履修
9	18		成人T細胞白血病 多発性骨髄腫 血友病	講義	
10	20		特発性血小板減少性紫斑病 血栓性血小板減少性紫斑病 IgA血管炎 播種性血管内凝固	講義	
11	22				
12	24				
13	26				
14	28				
15	30				
終講試験					
<事前学習>					
ビジュランサブスクの視聴					
<テキスト等の準備物品>					
成人看護学④血液・造血器 成人看護学⑨感染症/アレルギー・免疫/膠原病：メヂカルフレンド社					
<評価方法>					

科目名		時間数	単位	実施時期	講義担当者																																																																												
看護学概論		15	1	1年次	水野 淳子																																																																												
<学習目標> 1. 看護の歴史の変遷と様々な理論家による看護のとらえ方について理解することができる。 2. 看護活動展開のための法的根拠と看護における倫理の重要性について理解することができる。 3. 看護教育の変遷を理解し、継続教育とキャリア開発について理解することができる。					病院で看護師として勤務経験あり																																																																												
<授業計画> <table border="1" style="width:100%; border-collapse: collapse;"> <thead> <tr> <th>回数</th> <th>時間</th> <th>学習内容</th> <th>方法</th> <th>備考 (教材等)</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>2</td> <td rowspan="3">           看護とは (看護の本質)            4つのパラダイムのとらえ方            ①法における看護師の定義            ②看護職団体における看護の定義            ③看護理論家にみる看護の定義            (オレム ヘンダーソン ベナー オーランド)         </td> <td>講義</td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td>4</td> <td rowspan="2">ジグソー学習法</td> <td>*看護管理との内容わけ</td> </tr> <tr> <td>3</td> <td>6</td> <td></td> </tr> <tr> <td>4</td> <td>8</td> <td>看護の役割と機能</td> <td>講義</td> <td></td> </tr> <tr> <td>5</td> <td>10</td> <td>           看護の提供者と提供の仕組み            (継続教育とキャリア開発 クリニカルラダー)            (看護サービス提供の場 看護サービスの管理)         </td> <td>講義</td> <td></td> </tr> <tr> <td>6</td> <td>12</td> <td rowspan="2">           看護における倫理            ①医療をめぐる倫理の歴史的経緯と看護倫理            ②看護実践における倫理問題への取り組み            看護の本質としての看護倫理            看護実践場面での倫理的ジレンマ         </td> <td>講義</td> <td></td> </tr> <tr> <td>7</td> <td>14</td> <td>講義</td> <td></td> </tr> <tr> <td>8</td> <td>16</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>9</td> <td>18</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>10</td> <td>20</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>11</td> <td>22</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>12</td> <td>24</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>13</td> <td>26</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>14</td> <td>28</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>15</td> <td>30</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>						回数	時間	学習内容	方法	備考 (教材等)	1	2	看護とは (看護の本質) 4つのパラダイムのとらえ方 ①法における看護師の定義 ②看護職団体における看護の定義 ③看護理論家にみる看護の定義 (オレム ヘンダーソン ベナー オーランド)	講義		2	4	ジグソー学習法	*看護管理との内容わけ	3	6		4	8	看護の役割と機能	講義		5	10	看護の提供者と提供の仕組み (継続教育とキャリア開発 クリニカルラダー) (看護サービス提供の場 看護サービスの管理)	講義		6	12	看護における倫理 ①医療をめぐる倫理の歴史的経緯と看護倫理 ②看護実践における倫理問題への取り組み 看護の本質としての看護倫理 看護実践場面での倫理的ジレンマ	講義		7	14	講義		8	16				9	18				10	20				11	22				12	24				13	26				14	28				15	30			
回数	時間	学習内容	方法	備考 (教材等)																																																																													
1	2	看護とは (看護の本質) 4つのパラダイムのとらえ方 ①法における看護師の定義 ②看護職団体における看護の定義 ③看護理論家にみる看護の定義 (オレム ヘンダーソン ベナー オーランド)	講義																																																																														
2	4		ジグソー学習法	*看護管理との内容わけ																																																																													
3	6																																																																																
4	8	看護の役割と機能	講義																																																																														
5	10	看護の提供者と提供の仕組み (継続教育とキャリア開発 クリニカルラダー) (看護サービス提供の場 看護サービスの管理)	講義																																																																														
6	12	看護における倫理 ①医療をめぐる倫理の歴史的経緯と看護倫理 ②看護実践における倫理問題への取り組み 看護の本質としての看護倫理 看護実践場面での倫理的ジレンマ	講義																																																																														
7	14		講義																																																																														
8	16																																																																																
9	18																																																																																
10	20																																																																																
11	22																																																																																
12	24																																																																																
13	26																																																																																
14	28																																																																																
15	30																																																																																
終講試験																																																																																	
<事前学習> *ジグソー学習法について調べる。																																																																																	
<テキスト等の準備物品> 看護学概論 基礎看護学①: 医学書院                      看護職の倫理綱領: 照林社																																																																																	
<評価方法> 筆記試験・出席状況等																																																																																	

科目名		時間数	単位	実施時期	講義担当者
基礎看護技術Ⅰ (フィジカルアセスメント 呼吸循環を整える技術) (吸引・吸入)		30	1	1年次	榊原 信子 病院で看護師として勤務経験あり
<学習目標>					
1. 日常生活行動とからだの結びつきについて理解し、フィジカルイグザミネーションを習得できる。 2. フィジカルアセスメントの目的を理解し、その方法を身につけることができる。 3. 看護技術の根拠を理解し、対象の状況に応じた看護ケアを考えることができる。					
<授業計画>					
回数	時間	学習内容		方法	備考(教材等)
1	2	生きている機能と生きていく機能 ～フィジカルアセスメントを学ぶ意義～		講義	形態機能学臨床推論と結びつける
2	4	ヘルスアセスメントとは フィジカルアセスメントとは	ヘルスアセスメントの意義と目的 フィジカルイグザミネーションとは	講義	
3	6	腹部のヘルスアセスメント(1)	腹部のフィジカルアセスメントの意義 腹部の解剖と機能	講義	
4	8	腹部のヘルスアセスメント(2)	腹部のフィジカルアセスメントとは 腸蠕動音聴取 肝臓の打診 触診	講義	
5	10	腹部のヘルスアセスメント(3)	腸蠕動音聴取 触診 肝臓の打診	演習	
6	12	呼吸器のヘルスアセスメント (1)	呼吸器のフィジカルアセスメントの意義 呼吸器の解剖と機能	講義	
7	14	呼吸器のヘルスアセスメント (2)	呼吸器のフィジカルアセスメントとは 正常呼吸音 異常呼吸音 副雑音 呼吸音の聴取	講義	
8	16	呼吸器のヘルスアセスメント (3)	呼吸を整える技術 ・酸素ドレナージ ・排痰ケア(ハフリング 体位ドレナージ) ・吸引(一時的吸引) ・	講義	動画
9	18	呼吸器のヘルスアセスメント (4)	・呼吸音の聴取 ・酸素ドレナージ ・排痰ケア(ハフリング・体位ドレナージなど)	演習	吸引・吸入の演習含む
10	20	呼吸器のヘルスアセスメント (5)	・吸引(一時的吸引) ・吸入療法	演習	吸引・吸入の演習含む
11	22	循環器のヘルスアセスメント (1)	循環器のフィジカルアセスメントの意義 循環器の解剖と機能	講義	
12	24	循環器のヘルスアセスメント (2)	循環器のフィジカルアセスメントとは I音・II音・	講義	
13	26	循環器のヘルスアセスメント (3)	I音・II音・III音・IV音の聴取	演習	
14	28	フィジカルアセスメントの実際 (1)	紙上事例とシミュレーターを使ってフィジカルアセスメントする	GW	
15	30	フィジカルアセスメントの実際 (2)		GW	
終講試験					
<事前学習>					
プリント					
<テキスト等の準備物品>					
系統看護学講座 基礎看護学2 基礎看護技術Ⅰ (医学書院) 系統看護学講座 基礎看護学3 基礎看護技術Ⅱ (医学書院) 看護がみえる③フィジカルアセスメント (メディックメディア)					
<評価方法>					
終講試験80点 GW20点					

科目名		時間数	単位	実施時期	講義担当者
基礎看護技術 II (環境/苦痛緩和・安楽確保の技術/活動・休息/清潔) *各技術に安全確保の技術を含む		30	1	1年次	近内 絵里 井手田 理恵
<学習目標>					病院で看護師として勤務経験あり
1. 看護技術における安全・安楽・自立を理解し、倫理的側面に配慮した看護技術をみにつけることできる。 2. 看護技術の根拠を理解し、対象の状況に応じた看護技術を考え実施することができる。 3. 日常生活行動とからだの結びつきについて理解し、日常生活援助技術を習得できる。					
<授業計画>					
回数	時間	学習内容		方法	備考(教材等)
1	2	快適な環境をつくる技術	療養生活環境(知識の確認) 病室環境のアセスメントと調整	講義	近内 絵里(10)
2	4		療養環境における危険防止 安全・安楽な環境とは (認知症患者さんの環境整備など)		
3	6	安楽かつ快適さを確保する技術	1) 安楽の意義 苦痛と安楽 *メディカ出版参照 2) 安楽を確保するための援助 (1) 身体的援助 ・体位変換 体位保持 環境調整 巻法 清潔ケア(手浴 足浴 マッサージ) 安楽な体位の弊害(廃用症候群) (2) 精神的な援助 ・患者の思いを表出してもらうための働きかけ ・タッチング リラクゼーション(呼吸法など)	演習/安楽目的の 足浴・手浴	
4	8				
5	10				
6	12	活動・運動を支援する 技術 休息・睡眠を促す技術	看護形態機能学 ・動くとは 眠るとは *菱沼典子著参照	講義	井手田 理恵(20)
7	14		1) 体を動かすこと・保持することの意義 基本的活動の基礎知識 (ボディメカニクス・良肢位・抗重力メカニズム)		
8	16		2) 体位・移動に関するアセスメント		
9	18		3) 睡眠・休息の援助の基礎知識 (睡眠の種類・メカニズム・睡眠障害について)		
10	20		4) 睡眠のアセスメント 5) 睡眠・休息の援助 6) 活動・休息における危険防止		
11	22	身体の清潔を援助する 技術	看護形態機能学 *菱沼典子著参照 ・お風呂にはいる(皮膚の構造 皮膚の役割など)	講義	
12	24		1) 清潔の意義(生理的・身体的・社会的) 2) 清潔行為とその影響 ・身体的影響(温熱作用 静水圧作用 浮力作用 マッサージ効果)		
13	26		・心理的・社会的影響		
14	28		3) 清潔のアセスメント ・清潔のセルフケアに影響を与える要因 (発達段階 健康状態 環境要因 個人の生活習慣)		
15	30		4) 清潔ケアの実際 清拭・手浴・足浴の目的・基本知識 口腔ケアの実際(臥床患者・老年期への援助)		
終講試験					
<事前学習>					
・准看護師教育で学んだ環境、活動・休息、清潔の技術の原理原則の復習					
<テキスト等の準備物品>					
系統看護学講座専門分野 基礎看護技術 I・II 基礎看護学②③:医学書院					
<評価方法>					
筆記試験 出席状況 課題					

科目名		時間数	単位	実施時期	講義担当者																																																																									
基礎看護技術 III (食事・栄養/排泄/創傷治癒管理)		30	1	1年次	近内 絵里 (20) 森 隆志 七海陽子																																																																									
<学習目標> 1. 看護技術における安全・安楽・自立を理解し、倫理的側面に配慮した看護技術を身に着けることができる。 2. 看護技術の根拠を理解し、対象の状況に応じた看護技術を考えることができる。 3. 日常生活行動とからだの結びつきについて理解し、日常生活援助技術を習得できる。(食事・栄養/排泄) 4. 創傷管理技術の理解を深め、技術・知識を習得できる。					病院で看護師等として勤務経験あり																																																																									
<授業計画> <table border="1"> <thead> <tr> <th>回数</th> <th>時間</th> <th>学習内容</th> <th>方法</th> <th>備考(教材等)</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>2</td> <td rowspan="5">           看護形態機能学 食べるとは *菱沼典子 著参照            1) 食事・栄養の意義(生理的・心理的・社会的)            2) 食事・栄養のアセスメント(栄養状態 水分・電解質            摂食・嚥下 食欲)            3) 摂食・嚥下訓練の実際            *摂食嚥下障害認定看護師又はSTによる講義            4) 経口摂取の援助の基礎知識と実際の援助            ・視覚障害のある患者への食事援助            ・体動制限(臥床患者)のある患者の食事介助            5) 経管栄養の種類と留意点(経鼻・胃ろう)            ・経管栄養法の実際         </td> <td rowspan="2">講義</td> <td rowspan="5">近内 絵里(8) 森 隆志(2)</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td>4</td> </tr> <tr> <td>3</td> <td>6</td> </tr> <tr> <td>4</td> <td>8</td> </tr> <tr> <td>5</td> <td>10</td> <td>演習</td> </tr> <tr> <td>6</td> <td>12</td> <td rowspan="5">           看護形態機能学 トイレに行くとは *菱沼典子 著参照            1) 排尿・排便の意義(生理的・心理的・社会的)            2) 排尿・排便のアセスメント            (自然な排泄を阻害する要因、排泄行動含む)            3) 自然排泄を促す援助            4) 援助の実際            ・持続導尿の実際            ・浣腸、摘便の実際            5) ストーマケアの実際            (基礎知識 ストーマ装具等について)         </td> <td>講義</td> <td rowspan="2">近内 絵里(6)</td> </tr> <tr> <td>7</td> <td>14</td> <td>演習</td> </tr> <tr> <td>8</td> <td>16</td> <td rowspan="3">           講義            皮膚・排泄ケア認定看護師による講義            (オストミー、創傷、失禁について)         </td> <td rowspan="3">七海 陽子(8)</td> </tr> <tr> <td>9</td> <td>18</td> </tr> <tr> <td>10</td> <td>20</td> </tr> <tr> <td>11</td> <td>22</td> <td rowspan="5">           1) 創傷の分類と治癒過程            ・原因による分類 ・深さによる分類            ・汚染の程度による分類            2) 創傷の管理            ・スキンケア ・創傷処置            3) 褥瘡の管理            ・褥瘡の発生要因            ・褥瘡の発生部位            ・褥瘡の分類            ・褥瘡発生の予測・予防ケア            4) 包帯法等         </td> <td rowspan="4">講義</td> <td rowspan="5">近内 絵里(6)</td> </tr> <tr> <td>12</td> <td>24</td> </tr> <tr> <td>13</td> <td>26</td> </tr> <tr> <td>14</td> <td>28</td> </tr> <tr> <td>15</td> <td>30</td> <td>演習/*包帯法</td> </tr> <tr> <td colspan="6">終講試験</td> </tr> <tr> <td colspan="6">&lt;事前学習&gt;</td> </tr> <tr> <td colspan="6">           &lt;テキスト等の準備物品&gt;            系統看護学講座専門分野 基礎看護技術 I・II 基礎看護学②③ 臨床看護総論 : 医学書院         </td> </tr> <tr> <td colspan="6">           &lt;評価方法&gt;            筆記試験 出席状況 課題         </td> </tr> </tbody> </table>						回数	時間	学習内容	方法	備考(教材等)	1	2	看護形態機能学 食べるとは *菱沼典子 著参照 1) 食事・栄養の意義(生理的・心理的・社会的) 2) 食事・栄養のアセスメント(栄養状態 水分・電解質 摂食・嚥下 食欲) 3) 摂食・嚥下訓練の実際 *摂食嚥下障害認定看護師又はSTによる講義 4) 経口摂取の援助の基礎知識と実際の援助 ・視覚障害のある患者への食事援助 ・体動制限(臥床患者)のある患者の食事介助 5) 経管栄養の種類と留意点(経鼻・胃ろう) ・経管栄養法の実際	講義	近内 絵里(8) 森 隆志(2)	2	4	3	6	4	8	5	10	演習	6	12	看護形態機能学 トイレに行くとは *菱沼典子 著参照 1) 排尿・排便の意義(生理的・心理的・社会的) 2) 排尿・排便のアセスメント (自然な排泄を阻害する要因、排泄行動含む) 3) 自然排泄を促す援助 4) 援助の実際 ・持続導尿の実際 ・浣腸、摘便の実際 5) ストーマケアの実際 (基礎知識 ストーマ装具等について)	講義	近内 絵里(6)	7	14	演習	8	16	講義 皮膚・排泄ケア認定看護師による講義 (オストミー、創傷、失禁について)	七海 陽子(8)	9	18	10	20	11	22	1) 創傷の分類と治癒過程 ・原因による分類 ・深さによる分類 ・汚染の程度による分類 2) 創傷の管理 ・スキンケア ・創傷処置 3) 褥瘡の管理 ・褥瘡の発生要因 ・褥瘡の発生部位 ・褥瘡の分類 ・褥瘡発生の予測・予防ケア 4) 包帯法等	講義	近内 絵里(6)	12	24	13	26	14	28	15	30	演習/*包帯法	終講試験						<事前学習>						<テキスト等の準備物品> 系統看護学講座専門分野 基礎看護技術 I・II 基礎看護学②③ 臨床看護総論 : 医学書院						<評価方法> 筆記試験 出席状況 課題					
回数	時間	学習内容	方法	備考(教材等)																																																																										
1	2	看護形態機能学 食べるとは *菱沼典子 著参照 1) 食事・栄養の意義(生理的・心理的・社会的) 2) 食事・栄養のアセスメント(栄養状態 水分・電解質 摂食・嚥下 食欲) 3) 摂食・嚥下訓練の実際 *摂食嚥下障害認定看護師又はSTによる講義 4) 経口摂取の援助の基礎知識と実際の援助 ・視覚障害のある患者への食事援助 ・体動制限(臥床患者)のある患者の食事介助 5) 経管栄養の種類と留意点(経鼻・胃ろう) ・経管栄養法の実際	講義	近内 絵里(8) 森 隆志(2)																																																																										
2	4																																																																													
3	6																																																																													
4	8																																																																													
5	10		演習																																																																											
6	12	看護形態機能学 トイレに行くとは *菱沼典子 著参照 1) 排尿・排便の意義(生理的・心理的・社会的) 2) 排尿・排便のアセスメント (自然な排泄を阻害する要因、排泄行動含む) 3) 自然排泄を促す援助 4) 援助の実際 ・持続導尿の実際 ・浣腸、摘便の実際 5) ストーマケアの実際 (基礎知識 ストーマ装具等について)	講義	近内 絵里(6)																																																																										
7	14		演習																																																																											
8	16		講義 皮膚・排泄ケア認定看護師による講義 (オストミー、創傷、失禁について)	七海 陽子(8)																																																																										
9	18																																																																													
10	20																																																																													
11	22	1) 創傷の分類と治癒過程 ・原因による分類 ・深さによる分類 ・汚染の程度による分類 2) 創傷の管理 ・スキンケア ・創傷処置 3) 褥瘡の管理 ・褥瘡の発生要因 ・褥瘡の発生部位 ・褥瘡の分類 ・褥瘡発生の予測・予防ケア 4) 包帯法等	講義	近内 絵里(6)																																																																										
12	24																																																																													
13	26																																																																													
14	28																																																																													
15	30		演習/*包帯法																																																																											
終講試験																																																																														
<事前学習>																																																																														
<テキスト等の準備物品> 系統看護学講座専門分野 基礎看護技術 I・II 基礎看護学②③ 臨床看護総論 : 医学書院																																																																														
<評価方法> 筆記試験 出席状況 課題																																																																														

科目名		時間数	単位	実施時期	講義担当者																																															
基礎看護技術 IV 与薬の看護技術／症状・生体機能管理技術 救命救急処置／診察・検査・処置の技術		30	1	1年次	白井 美緒 大槻 ゆう子																																															
<学習目標> 1. 与薬・輸血の基礎知識を理解し、援助技術を習得できる。 2. 検体検査について理解し、それぞれの検査時の看護援助を習得できる。 3. 救命救急処置の方法を習得できる。 4. 検査・処置の基礎知識を理解する					病院で看護師として勤務経験あり																																															
<授業計画> <table border="1"> <thead> <tr> <th>回数</th> <th>時間</th> <th>学習内容</th> <th>方法</th> <th>備考(教材等)</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>2</td> <td rowspan="7">与薬の技術と安全確保の技術</td> <td rowspan="7">講義</td> <td rowspan="7">白井 美緒(20)</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td>4</td> </tr> <tr> <td>3</td> <td>6</td> </tr> <tr> <td>4</td> <td>8</td> </tr> <tr> <td>5</td> <td>10</td> </tr> <tr> <td>6</td> <td>12</td> </tr> <tr> <td>7</td> <td>14</td> </tr> <tr> <td>8</td> <td>16</td> <td rowspan="3">症状・生体機能管理技術</td> <td rowspan="3">演習</td> <td rowspan="3">*生体情報モニタリングについては臨床看護総論で学ぶ講義</td> </tr> <tr> <td>9</td> <td>18</td> </tr> <tr> <td>10</td> <td>20</td> </tr> <tr> <td>11</td> <td>22</td> <td rowspan="2">救命救急処置技術</td> <td rowspan="2">講義・演習</td> <td rowspan="2">*トリアージについては、災害看護で学ぶ</td> </tr> <tr> <td>12</td> <td>24</td> </tr> <tr> <td>13</td> <td>26</td> <td rowspan="3">診察・検査・処置における技術</td> <td rowspan="3">講義</td> <td rowspan="3">*内視鏡検査の看護については消化器内視鏡技術師免許を持つ看護師に講義を依頼</td> </tr> <tr> <td>14</td> <td>28</td> </tr> <tr> <td>15</td> <td>30</td> </tr> </tbody> </table>						回数	時間	学習内容	方法	備考(教材等)	1	2	与薬の技術と安全確保の技術	講義	白井 美緒(20)	2	4	3	6	4	8	5	10	6	12	7	14	8	16	症状・生体機能管理技術	演習	*生体情報モニタリングについては臨床看護総論で学ぶ講義	9	18	10	20	11	22	救命救急処置技術	講義・演習	*トリアージについては、災害看護で学ぶ	12	24	13	26	診察・検査・処置における技術	講義	*内視鏡検査の看護については消化器内視鏡技術師免許を持つ看護師に講義を依頼	14	28	15	30
回数	時間	学習内容	方法	備考(教材等)																																																
1	2	与薬の技術と安全確保の技術	講義	白井 美緒(20)																																																
2	4																																																			
3	6																																																			
4	8																																																			
5	10																																																			
6	12																																																			
7	14																																																			
8	16	症状・生体機能管理技術	演習	*生体情報モニタリングについては臨床看護総論で学ぶ講義																																																
9	18																																																			
10	20																																																			
11	22	救命救急処置技術	講義・演習	*トリアージについては、災害看護で学ぶ																																																
12	24																																																			
13	26	診察・検査・処置における技術	講義	*内視鏡検査の看護については消化器内視鏡技術師免許を持つ看護師に講義を依頼																																																
14	28																																																			
15	30																																																			
終講試験																																																				
<事前学習> 胸腔・腹腔、腰椎、骨髄等の解剖生理など																																																				
<テキスト等の準備物品> 系統看護学講座専門分野 基礎看護技術Ⅰ・Ⅱ 基礎看護学②③ 臨床看護総論 : 医学書院																																																				
<評価方法> 筆記試験 出席状況 課題																																																				

科目名		時間数	単位	実施時期	講義担当者																																																															
臨床看護総論		30	1	1年次	榊原信子 長澤由紀 緑川弘子 西勝光紀 病院で看護師等として勤務経験あり																																																															
<学習目標> 1. 基礎的な知識・技術を統合し、健康状態の経過に基づく看護、主な症状を示す対象者への看護を理解できる。 2. 基礎的な知識・技術を統合し、治療・処置を受ける対象者への看護を理解できる。 3. 医療機器についての原理・原則、を理解し、安全かつ適切に使用することができる。																																																																				
<授業計画> <table border="1" style="width:100%; border-collapse: collapse;"> <thead> <tr> <th>回数</th> <th>時間</th> <th>学習内容</th> <th>方法</th> <th>備考(教材等)</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>2</td> <td>主要な症状を示す対象者への看護(呼吸・循環)</td> <td>講義</td> <td rowspan="5">榊原信子</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td>4</td> <td>主要な症状を示す対象者への看護(排泄・活動と休息)</td> <td>講義</td> </tr> <tr> <td>3</td> <td>6</td> <td>健康状態の経過に基づく看護(急性期における看護)</td> <td>講義</td> </tr> <tr> <td>4</td> <td>8</td> <td>健康状態の経過に基づく看護(回復期における看護)</td> <td>講義</td> </tr> <tr> <td>5</td> <td>10</td> <td>健康状態の経過に基づく看護(慢性期における看護)</td> <td>講義</td> </tr> <tr> <td>6</td> <td>12</td> <td>治療・処置を受ける対象者への看護 (化学療法を受ける対象者への看護)</td> <td>講義</td> <td rowspan="2">*周手術期看護は領域横断科目で 身体侵襲を伴う検査・治療の看護 は基礎看護Ⅳで学ぶ *スペシャリストナースによる講 義(長澤由紀)</td> </tr> <tr> <td>7</td> <td>14</td> <td>治療・処置を受ける対象者への看護 (化学療法を受ける対象者への看護)</td> <td>講義</td> </tr> <tr> <td>8</td> <td>16</td> <td>治療・処置を受ける対象者への看護 (放射線療法・検査を受ける対象者への看護①)</td> <td>講義</td> <td rowspan="2">*創傷ケア看護は基礎看護Ⅲで学ぶ (緑川弘子)</td> </tr> <tr> <td>9</td> <td>18</td> <td>治療・処置を受ける対象者への看護 (放射線療法・検査を受ける対象者への看護②)</td> <td>講義</td> </tr> <tr> <td>10</td> <td>20</td> <td>治療・処置を受ける対象者への看護(透析受ける対象者への看護)</td> <td>講義</td> <td rowspan="6">*テイジン・日本工電・フ クダ電子協力  西勝光紀</td> </tr> <tr> <td>11</td> <td>22</td> <td rowspan="6">医療機器を必要とする対象者への看護 1) 医療機器の定義と種類 2) 医療機器を使用するために必要な要素 3) 医療機器の実際 (パルスオキシメーター・心電計・輸液ポンプ シリンジポンプ・人工呼吸器・除細動器)</td> <td rowspan="6">講義・演習</td> </tr> <tr> <td>12</td> <td>24</td> </tr> <tr> <td>13</td> <td>26</td> </tr> <tr> <td>14</td> <td>28</td> </tr> <tr> <td>15</td> <td>30</td> </tr> <tr> <td>15</td> <td>30</td> </tr> </tbody> </table>						回数	時間	学習内容	方法	備考(教材等)	1	2	主要な症状を示す対象者への看護(呼吸・循環)	講義	榊原信子	2	4	主要な症状を示す対象者への看護(排泄・活動と休息)	講義	3	6	健康状態の経過に基づく看護(急性期における看護)	講義	4	8	健康状態の経過に基づく看護(回復期における看護)	講義	5	10	健康状態の経過に基づく看護(慢性期における看護)	講義	6	12	治療・処置を受ける対象者への看護 (化学療法を受ける対象者への看護)	講義	*周手術期看護は領域横断科目で 身体侵襲を伴う検査・治療の看護 は基礎看護Ⅳで学ぶ *スペシャリストナースによる講 義(長澤由紀)	7	14	治療・処置を受ける対象者への看護 (化学療法を受ける対象者への看護)	講義	8	16	治療・処置を受ける対象者への看護 (放射線療法・検査を受ける対象者への看護①)	講義	*創傷ケア看護は基礎看護Ⅲで学ぶ (緑川弘子)	9	18	治療・処置を受ける対象者への看護 (放射線療法・検査を受ける対象者への看護②)	講義	10	20	治療・処置を受ける対象者への看護(透析受ける対象者への看護)	講義	*テイジン・日本工電・フ クダ電子協力  西勝光紀	11	22	医療機器を必要とする対象者への看護 1) 医療機器の定義と種類 2) 医療機器を使用するために必要な要素 3) 医療機器の実際 (パルスオキシメーター・心電計・輸液ポンプ シリンジポンプ・人工呼吸器・除細動器)	講義・演習	12	24	13	26	14	28	15	30	15	30
回数	時間	学習内容	方法	備考(教材等)																																																																
1	2	主要な症状を示す対象者への看護(呼吸・循環)	講義	榊原信子																																																																
2	4	主要な症状を示す対象者への看護(排泄・活動と休息)	講義																																																																	
3	6	健康状態の経過に基づく看護(急性期における看護)	講義																																																																	
4	8	健康状態の経過に基づく看護(回復期における看護)	講義																																																																	
5	10	健康状態の経過に基づく看護(慢性期における看護)	講義																																																																	
6	12	治療・処置を受ける対象者への看護 (化学療法を受ける対象者への看護)	講義	*周手術期看護は領域横断科目で 身体侵襲を伴う検査・治療の看護 は基礎看護Ⅳで学ぶ *スペシャリストナースによる講 義(長澤由紀)																																																																
7	14	治療・処置を受ける対象者への看護 (化学療法を受ける対象者への看護)	講義																																																																	
8	16	治療・処置を受ける対象者への看護 (放射線療法・検査を受ける対象者への看護①)	講義	*創傷ケア看護は基礎看護Ⅲで学ぶ (緑川弘子)																																																																
9	18	治療・処置を受ける対象者への看護 (放射線療法・検査を受ける対象者への看護②)	講義																																																																	
10	20	治療・処置を受ける対象者への看護(透析受ける対象者への看護)	講義	*テイジン・日本工電・フ クダ電子協力  西勝光紀																																																																
11	22	医療機器を必要とする対象者への看護 1) 医療機器の定義と種類 2) 医療機器を使用するために必要な要素 3) 医療機器の実際 (パルスオキシメーター・心電計・輸液ポンプ シリンジポンプ・人工呼吸器・除細動器)	講義・演習																																																																	
12	24																																																																			
13	26																																																																			
14	28																																																																			
15	30																																																																			
15	30																																																																			
終講試験																																																																				
<事前学習>																																																																				
<テキスト等の準備物品> 専門分野 臨床看護総論 基礎看護学 :医学書院																																																																				
<評価方法> 筆記試験 出席状況 課題等																																																																				

科目名		時間数	単位	実施時期	講義担当者																																																																																
看護過程 I		15	1	1年次	多々良さつき																																																																																
<学習目標> 1. 看護過程を構成する要素とそのプロセスを理解することができる。 2. 問題解決過程やクリティカルシンキングなど看護過程の基盤となる考え方を学ぶことができる。 3. 看護を実践するための方法として、看護過程をもちいることの意義を理解する。					病院で看護師として勤務経験あり																																																																																
<授業計画> <table border="1" style="width:100%; border-collapse: collapse;"> <thead> <tr> <th>回数</th> <th>時間</th> <th>学習内容</th> <th>方法</th> <th>備考 (教材等)</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>2</td> <td>看護過程とは 看護過程の構成要素 問題解決過程 倫理的配慮 クリティカルシンキング リフレクション</td> <td>講義</td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td>4</td> <td>看護過程のプロセス① 事例：睡眠 情報とは 情報収集の種類 アセスメントとは</td> <td>講義</td> <td>アセスメントの課題</td> </tr> <tr> <td>3</td> <td>6</td> <td>看護過程のプロセス② 事例：睡眠 アセスメントの実際</td> <td>講義</td> <td></td> </tr> <tr> <td>4</td> <td>8</td> <td>看護過程のプロセス③ 身近な出来事で関連図を描こう (GW)</td> <td>GW</td> <td>睡眠の関連図の課題</td> </tr> <tr> <td>5</td> <td>10</td> <td>看護過程のプロセス④ 全体像 (関連図) と看護問題の明確化事例：睡眠を用いて</td> <td>GW</td> <td></td> </tr> <tr> <td>6</td> <td>12</td> <td>看護過程のプロセス⑤ 看護計画立案 (看護目標設定 具体策) 事例：睡眠を用いて</td> <td>講義</td> <td>具体策の課題</td> </tr> <tr> <td>7</td> <td>14</td> <td>看護過程のプロセス⑥ O-P T-P E-P立案 評価・修正とは</td> <td>講義・GW</td> <td></td> </tr> <tr> <td>8</td> <td>16</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>9</td> <td>18</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>10</td> <td>20</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>11</td> <td>22</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>12</td> <td>24</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>13</td> <td>26</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>14</td> <td>28</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>15</td> <td>30</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>						回数	時間	学習内容	方法	備考 (教材等)	1	2	看護過程とは 看護過程の構成要素 問題解決過程 倫理的配慮 クリティカルシンキング リフレクション	講義		2	4	看護過程のプロセス① 事例：睡眠 情報とは 情報収集の種類 アセスメントとは	講義	アセスメントの課題	3	6	看護過程のプロセス② 事例：睡眠 アセスメントの実際	講義		4	8	看護過程のプロセス③ 身近な出来事で関連図を描こう (GW)	GW	睡眠の関連図の課題	5	10	看護過程のプロセス④ 全体像 (関連図) と看護問題の明確化事例：睡眠を用いて	GW		6	12	看護過程のプロセス⑤ 看護計画立案 (看護目標設定 具体策) 事例：睡眠を用いて	講義	具体策の課題	7	14	看護過程のプロセス⑥ O-P T-P E-P立案 評価・修正とは	講義・GW		8	16				9	18				10	20				11	22				12	24				13	26				14	28				15	30			
回数	時間	学習内容	方法	備考 (教材等)																																																																																	
1	2	看護過程とは 看護過程の構成要素 問題解決過程 倫理的配慮 クリティカルシンキング リフレクション	講義																																																																																		
2	4	看護過程のプロセス① 事例：睡眠 情報とは 情報収集の種類 アセスメントとは	講義	アセスメントの課題																																																																																	
3	6	看護過程のプロセス② 事例：睡眠 アセスメントの実際	講義																																																																																		
4	8	看護過程のプロセス③ 身近な出来事で関連図を描こう (GW)	GW	睡眠の関連図の課題																																																																																	
5	10	看護過程のプロセス④ 全体像 (関連図) と看護問題の明確化事例：睡眠を用いて	GW																																																																																		
6	12	看護過程のプロセス⑤ 看護計画立案 (看護目標設定 具体策) 事例：睡眠を用いて	講義	具体策の課題																																																																																	
7	14	看護過程のプロセス⑥ O-P T-P E-P立案 評価・修正とは	講義・GW																																																																																		
8	16																																																																																				
9	18																																																																																				
10	20																																																																																				
11	22																																																																																				
12	24																																																																																				
13	26																																																																																				
14	28																																																																																				
15	30																																																																																				
終講試験																																																																																					
<事前学習>																																																																																					
<テキスト等の準備物品> 基礎看護技術 I・II：医学書院                      症状別・疾患別看護ケア関連図：中央法規																																																																																					
<評価方法> 課題の提出      筆記試験																																																																																					

科目名		時間数	単位	実施時期	講義担当者																																																																													
看護過程Ⅱ		30	1	1年次	多々良さつき																																																																													
<学習目標> 1. 紙上事例で情報の分類・整理ができ、アセスメントすることができる。 2. 紙上事例でアセスメントをもとに全体像を把握することができる。 3. 紙上事例で具体策を立案できる。					病院で看護師として勤務経験あり																																																																													
<授業計画> <table border="1" style="width:100%; border-collapse: collapse;"> <thead> <tr> <th>回数</th> <th>時間</th> <th>学習内容</th> <th>方法</th> <th>備考(教材等)</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>2</td> <td>事例を用いた看護展開①</td> <td>看護過程の展開に必要な解剖生理・病態生理の理解について 事例：腰椎圧迫骨折</td> <td>講義</td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td>4</td> <td>事例を用いた看護展開②</td> <td rowspan="5">           ①フェイスシート記載            ②情報収集と情報の整理・分類            ③情報を科学的根拠に基づいて分析・解釈             ＊呼吸, 循環, 排泄, 飲食, 姿勢・運動            睡眠・休息, 体温, 清潔, 環境, コミュニケーションについてアセスメントする             ＊アセスメントの提出(個人評価20点)            その後、個人指導、またはグループ指導             ＊夏休み課題：全体関連図書き、全体像把握(個人評価10点)         </td> <td rowspan="5">個人ワーク</td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td>6</td> <td>事例を用いた看護展開③</td> <td></td> </tr> <tr> <td>4</td> <td>8</td> <td>事例を用いた看護展開④</td> <td></td> </tr> <tr> <td>5</td> <td>10</td> <td>事例を用いた看護展開⑤</td> <td></td> </tr> <tr> <td>6</td> <td>12</td> <td>事例を用いた看護展開⑥</td> <td></td> </tr> <tr> <td>7</td> <td>14</td> <td>事例を用いた看護展開⑦</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>8</td> <td>16</td> <td>事例を用いた看護展開⑧</td> <td rowspan="4">           ①全体像の把握(全体関連図を用いて)            ②看護問題抽出・看護問題設定            グループで全体関連図を作成し、看護問題を抽出する。             ＊全体関連図完成後、グループ同士でディスカッションを行い、関連図の評価を行う。(グループ評価10点)         </td> <td rowspan="4">GW</td> <td></td> </tr> <tr> <td>9</td> <td>18</td> <td>事例を用いた看護展開⑨</td> <td></td> </tr> <tr> <td>10</td> <td>20</td> <td>事例を用いた看護展開⑩</td> <td></td> </tr> <tr> <td>11</td> <td>22</td> <td>事例を用いた看護展開⑪</td> <td></td> </tr> <tr> <td>12</td> <td>24</td> <td>事例を用いた看護展開⑫</td> <td rowspan="2">           ①看護問題の抽出・優先順位の決定            ②看護問題の明文化            ③看護目標の設定と具体策の立案            ＊看護計画の提出(個人評価10点)         </td> <td rowspan="2">個人ワーク GW</td> <td></td> </tr> <tr> <td>13</td> <td>26</td> <td>事例を用いた看護展開⑬</td> <td></td> </tr> <tr> <td>14</td> <td>28</td> <td>事例を用いた看護展開⑭</td> <td rowspan="2">           看護計画の立案、実施の評価・修正            (目標の設定と            具体策の立案 O-P T-P E-P)         </td> <td>GW</td> <td></td> </tr> <tr> <td>15</td> <td>30</td> <td>事例を用いた看護展開⑮</td> <td>講義</td> <td></td> </tr> </tbody> </table>						回数	時間	学習内容	方法	備考(教材等)	1	2	事例を用いた看護展開①	看護過程の展開に必要な解剖生理・病態生理の理解について 事例：腰椎圧迫骨折	講義		2	4	事例を用いた看護展開②	①フェイスシート記載 ②情報収集と情報の整理・分類 ③情報を科学的根拠に基づいて分析・解釈  ＊呼吸, 循環, 排泄, 飲食, 姿勢・運動 睡眠・休息, 体温, 清潔, 環境, コミュニケーションについてアセスメントする  ＊アセスメントの提出(個人評価20点) その後、個人指導、またはグループ指導  ＊夏休み課題：全体関連図書き、全体像把握(個人評価10点)	個人ワーク		3	6	事例を用いた看護展開③		4	8	事例を用いた看護展開④		5	10	事例を用いた看護展開⑤		6	12	事例を用いた看護展開⑥		7	14	事例を用いた看護展開⑦			8	16	事例を用いた看護展開⑧	①全体像の把握(全体関連図を用いて) ②看護問題抽出・看護問題設定 グループで全体関連図を作成し、看護問題を抽出する。  ＊全体関連図完成後、グループ同士でディスカッションを行い、関連図の評価を行う。(グループ評価10点)	GW		9	18	事例を用いた看護展開⑨		10	20	事例を用いた看護展開⑩		11	22	事例を用いた看護展開⑪		12	24	事例を用いた看護展開⑫	①看護問題の抽出・優先順位の決定 ②看護問題の明文化 ③看護目標の設定と具体策の立案 ＊看護計画の提出(個人評価10点)	個人ワーク GW		13	26	事例を用いた看護展開⑬		14	28	事例を用いた看護展開⑭	看護計画の立案、実施の評価・修正 (目標の設定と 具体策の立案 O-P T-P E-P)	GW		15	30	事例を用いた看護展開⑮	講義	
回数	時間	学習内容	方法	備考(教材等)																																																																														
1	2	事例を用いた看護展開①	看護過程の展開に必要な解剖生理・病態生理の理解について 事例：腰椎圧迫骨折	講義																																																																														
2	4	事例を用いた看護展開②	①フェイスシート記載 ②情報収集と情報の整理・分類 ③情報を科学的根拠に基づいて分析・解釈  ＊呼吸, 循環, 排泄, 飲食, 姿勢・運動 睡眠・休息, 体温, 清潔, 環境, コミュニケーションについてアセスメントする  ＊アセスメントの提出(個人評価20点) その後、個人指導、またはグループ指導  ＊夏休み課題：全体関連図書き、全体像把握(個人評価10点)	個人ワーク																																																																														
3	6	事例を用いた看護展開③																																																																																
4	8	事例を用いた看護展開④																																																																																
5	10	事例を用いた看護展開⑤																																																																																
6	12	事例を用いた看護展開⑥																																																																																
7	14	事例を用いた看護展開⑦																																																																																
8	16	事例を用いた看護展開⑧	①全体像の把握(全体関連図を用いて) ②看護問題抽出・看護問題設定 グループで全体関連図を作成し、看護問題を抽出する。  ＊全体関連図完成後、グループ同士でディスカッションを行い、関連図の評価を行う。(グループ評価10点)	GW																																																																														
9	18	事例を用いた看護展開⑨																																																																																
10	20	事例を用いた看護展開⑩																																																																																
11	22	事例を用いた看護展開⑪																																																																																
12	24	事例を用いた看護展開⑫	①看護問題の抽出・優先順位の決定 ②看護問題の明文化 ③看護目標の設定と具体策の立案 ＊看護計画の提出(個人評価10点)	個人ワーク GW																																																																														
13	26	事例を用いた看護展開⑬																																																																																
14	28	事例を用いた看護展開⑭	看護計画の立案、実施の評価・修正 (目標の設定と 具体策の立案 O-P T-P E-P)	GW																																																																														
15	30	事例を用いた看護展開⑮		講義																																																																														
終講試験																																																																																		
<事前学習> 提出課題：骨粗しょう症・脊椎椎体骨折(腰椎圧迫骨折)の病態生理・検査・治療・看護 老年期の特徴(加齢に伴う身体的変化など)																																																																																		
<テキスト等の準備物品>																																																																																		
<評価方法> 事前課題(10点) 個人課題評価(40点) グループ課題評価(10点) 筆記試験(40点)																																																																																		

科目名		時間数	単位	実施時期	講義担当者
看護研究 I		15	1	1年次	井手田 理恵
<学習目標>					病院で看護師として勤務経験あり
1. 看護研究の意義・目的を理解し、その進め方を学ぶことができる。					
<授業計画>					
回数	時間	学習内容		方法	備考 (教材等)
1	2	看護研究とは	1) なぜ看護研究を学ぶのか 2) 看護研究の歴史 4) 看護研究の重要性	講義	テキスト PP
2	4	看護研究のはじめ方	1) リサーチクエストとは 2) 科学的根拠とは 3) 文献とは 4) クリティークとは	講義	テキスト PP
3	6	研究における倫理的配慮	1) 倫理的配慮の原則 2) 遵守すべき倫理原則	講義	テキスト PP
4	8	研究デザイン	1) 質的研究デザインと量的研究デザイン 2) ケースレポートとは 3) 事例研究とは 4) 構成要素 5) クリティークとは 6) クリティークの方法	講義	テキスト PP
5	10	看護研究論文 クリティーク	文献レビューの作成、クリティークの実際 冊子から5つ選択し、文献レビューを作成する (文献レビュー提出 20点)	講義	テキスト PP
6	12	看護研究論文 クリティーク		講義	テキスト PP
7	14	研究計画書の作成 研究を伝える方法	1) 研究計画書とは 2) 研究計画書の書き方 1) 研究成果をまとめる 発表の形式	講義	テキスト PP
8	15	研究発表会出席	ケーススタディ発表会 (レポート提出20点)		
終講試験					
<事前学習>					
情報科学 (情報倫理、文献検索)、ロジカルシンキングの復習					
<テキスト等の準備物品>					
系統看護学講座 別巻 看護研究 医学書院					
<評価方法>					
課題レポート: 文献検索/ 文献レビュー作成 (各20点) 筆記試験 (60点)					

科目名		時間数	単位	実施時期	講義担当者
地域と社会		45	2	1年次	橋本真喜 社協職員
<学習目標>					病院で看護師として勤務経験あり
1. 暮らしの基盤である地域について知り、地域のつながりを理解することができる 2. 地域住民の健康意識と課題を理解することができる					
<授業計画>					
回数	時間	学習内容	方法	備考（教材等）	
1	2	授業ガイダンス 地域の特徴を理解する①	講義・GW	市HP/広報、 行政窓口 市民・NPO 活動推進課での 調べ学習	
2	4	地域の特徴を理解する②			
3	6	地域の特徴を理解する③			
4	8	地域とは①	講義	市政きらめき出前講座	
5	10	地域とは②	講義		
6	12	地域とは③	講義	社会福祉協議会	
7	14	地域とは④	講義		
8	16	地区踏査	フィールドワークのガイダンス	講義・GW	
9	18		テーマ「地域を探求しよう」	GW	
10	20		目的、計画を立案、アポイント、 踏査計画書作成	GW	
11	22		地域の社会資源について調べる	フィールドワーク	
12	24		フィールドワーク		
13	26		発表準備	GW	
14	28			GW	
15	30		地区踏査について発表	GW	
16	32	住民生活と健康①	地域住民の健康意識を調査（インタ ビュー）、	GW	
17	34	住民生活と健康②	調査計画書、インタビュー内容作成	GW	
18	36	住民生活と健康③	公民館活動、あさかの大学参加者、まるごと健 康財団主催健康教室参加者、ジム利用者などへ のインタビュー	フィールドワーク	
19	38	住民生活と健康④		フィールドワーク	
20	40	住民生活と健康⑤	インタビュー内容のまとめ、発表	GW	
21	42	住民生活と健康⑥		GW/発表	
22	44	住民生活と健康⑦	地域住民の健康課題と解決策の検討	GW	
23	46	住民生活と健康⑧	地域住民の健康課題と解決策の検討・発表	GW	
終講試験					
<事前学習>					
自分の住んでいる（住んでいた）場所の、住民組織について調べる					
<テキスト等の準備物品>					
医学書院 地域・在宅看護の基盤 地域・在宅看護論 1					
<評価方法>					
レポート40点+講義・グループワーク・発表等の内容・参加態度60点 GW取り組み状況、発表・聴講態度、レポート「地域で生活するとは」					

科目名		時間数	単位	実施時期	講義担当者																																																																																
地域・在宅看護論 I		15	1	1年次	橋本真喜																																																																																
<学習目標> 1. 地域・在宅看護の対象が理解できる 2. 地域・在宅看護に関わる制度と活用方法がわかる					病院で看護師として勤務経験あり																																																																																
<授業計画> <table border="1" style="width:100%; border-collapse: collapse;"> <thead> <tr> <th>回数</th> <th>時間</th> <th>学習内容</th> <th>方法</th> <th>備考 (教材等)</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>2</td> <td>地域・在宅看護の対象 地域における多様性 ライフステージによる多様性</td> <td>講義</td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td>4</td> <td>家族の理解 家族の現状、変遷、地域・在宅看護対象としての家族</td> <td>講義</td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td>6</td> <td>地域での暮らしにおけるリスク、災害対策 暮らしにおけるリスクと安全に生活する援助 地域での災害対策</td> <td>講義</td> <td></td> </tr> <tr> <td>4</td> <td>8</td> <td>地域・在宅看護実践の場と連携 さまざまな場、職種で支える暮らし 地域・在宅看護実践の場</td> <td>講義</td> <td></td> </tr> <tr> <td>5</td> <td>10</td> <td>” 地域・在宅看護における多職種連携</td> <td>講義</td> <td></td> </tr> <tr> <td>6</td> <td>12</td> <td>地域・在宅看護にかかわる制度と活用 介護保険制度 医療保険制度</td> <td>講義</td> <td></td> </tr> <tr> <td>7</td> <td>14</td> <td>” 医療提供体制、訪問看護制度 地域保健にかかわる法制度</td> <td>講義</td> <td></td> </tr> <tr> <td>8</td> <td>16</td> <td>” 高齢者、障害者・難病に関する法制度 公費負担医療、権利保障</td> <td>講義</td> <td></td> </tr> <tr> <td>9</td> <td>18</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>10</td> <td>20</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>11</td> <td>22</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>12</td> <td>24</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>13</td> <td>26</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>14</td> <td>28</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>15</td> <td>30</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>						回数	時間	学習内容	方法	備考 (教材等)	1	2	地域・在宅看護の対象 地域における多様性 ライフステージによる多様性	講義		2	4	家族の理解 家族の現状、変遷、地域・在宅看護対象としての家族	講義		3	6	地域での暮らしにおけるリスク、災害対策 暮らしにおけるリスクと安全に生活する援助 地域での災害対策	講義		4	8	地域・在宅看護実践の場と連携 さまざまな場、職種で支える暮らし 地域・在宅看護実践の場	講義		5	10	” 地域・在宅看護における多職種連携	講義		6	12	地域・在宅看護にかかわる制度と活用 介護保険制度 医療保険制度	講義		7	14	” 医療提供体制、訪問看護制度 地域保健にかかわる法制度	講義		8	16	” 高齢者、障害者・難病に関する法制度 公費負担医療、権利保障	講義		9	18				10	20				11	22				12	24				13	26				14	28				15	30			
回数	時間	学習内容	方法	備考 (教材等)																																																																																	
1	2	地域・在宅看護の対象 地域における多様性 ライフステージによる多様性	講義																																																																																		
2	4	家族の理解 家族の現状、変遷、地域・在宅看護対象としての家族	講義																																																																																		
3	6	地域での暮らしにおけるリスク、災害対策 暮らしにおけるリスクと安全に生活する援助 地域での災害対策	講義																																																																																		
4	8	地域・在宅看護実践の場と連携 さまざまな場、職種で支える暮らし 地域・在宅看護実践の場	講義																																																																																		
5	10	” 地域・在宅看護における多職種連携	講義																																																																																		
6	12	地域・在宅看護にかかわる制度と活用 介護保険制度 医療保険制度	講義																																																																																		
7	14	” 医療提供体制、訪問看護制度 地域保健にかかわる法制度	講義																																																																																		
8	16	” 高齢者、障害者・難病に関する法制度 公費負担医療、権利保障	講義																																																																																		
9	18																																																																																				
10	20																																																																																				
11	22																																																																																				
12	24																																																																																				
13	26																																																																																				
14	28																																																																																				
15	30																																																																																				
終講試験																																																																																					
<事前学習> 教科書第3章 演習3ワークシート																																																																																					
<テキスト等の準備物品> 医学書院 地域・在宅看護の基盤 地域・在宅看護論1																																																																																					
<評価方法> 終講試験																																																																																					

科目名		時間数	単位	実施時期	講義担当者
地域・在宅看護論Ⅱ		30	1	1年次	橋本真喜(16) 古川 ひとみ (14)
<学習目標> 1. 暮らしの場で提供される看護について理解する 2. 地域・在宅看護における療養者と家族を支援する方法がわかる 3. 地域・在宅看護における時期別看護がわかる <授業計画>					病院で看護師として勤務経験あり
回数	時間	学習内容		方法	備考(教材等)
1	2	暮らしの場で看護をするための心構え	地域・在宅看護実践とは 地域・在宅看護実践に欠かせない要素	講義	教科書2章から
2	4	セルフケアを支える対話・コミュニケーション	対象者と看護師のパートナーシップ 対象者と看護師の対話・コミュニケーション	講義	
3	6	地域・在宅看護における家族を支える看護	家族のアセスメントのポイント 家族の支援 家族支援の例	講義	
4	8	地域・在宅看護における安全をまもる看護①	療養者の暮らしを取り巻くリスクと安全対策 地域・在宅看護実践におけるリスクマネジメント	講義	
5	10	地域・在宅看護における安全をまもる看護②	地域・在宅看護における看護師への暴力・ハラスメント	講義	
6	12	地域における暮らしを支える看護実践①	療養環境調整に関する地域・在宅看護技術 活動・休息に関する地域・在宅看護技術	講義	訪看
7	14	地域における暮らしを支える看護実践②	食生活・嚥下に関する地域・在宅看護技術	講義	訪看
8	16	地域における暮らしを支える看護実践③	排泄に関する地域・在宅看護技術	講義	訪看
9	18	地域における暮らしを支える看護実践④	清潔・衣生活に関する地域・在宅看護技術	講義	訪看
10	20	地域における暮らしを支える看護実践⑤	苦痛の緩和・安楽確保に関する地域・在宅看護技術 呼吸・循環に関する地域・在宅看護技術	講義	訪看
11	22	地域における暮らしを支える看護実践⑥	呼吸・循環における医療管理レベルの高い療養者の援助①	講義	訪看
12	24	地域における暮らしを支える看護実践⑦	呼吸・循環における医療管理レベルの高い療養者の援助②	講義	TEIJIN HOT、呼吸器
13	26	地域における暮らしを支える看護実践⑧	創傷管理に関する地域・在宅看護技術 与薬に関する地域・在宅看護技術	講義	訪看
14	28	時期別の看護①	健康時と外来受診期、入院時、在宅療養準備期、在宅療養移行期	講義	
15	30	時期別の看護②	在宅療養安定期、急性増悪期、終末期、終了期	講義	
終講試験					
<事前学習> 基礎看護技術の内容を復習					
<テキスト等の準備物品> 医学書院 地域・在宅看護の実践 地域・在宅看護論2					
<評価方法> 終講試験(講師50点+教員50点)					

科目名		時間数	単位	実施時期	講義担当者																																																																																															
地域・在宅看護論Ⅲ		30	1	1年次	橋本真喜																																																																																															
<学習目標> 1. 地域・在宅看護における看護過程を理解し、療養生活を支援する方法がわかる 2. 切れ目ない看護と多職種連携・協働について考えることができる					病院で看護師として勤務経験あり																																																																																															
<授業計画> <table border="1"> <thead> <tr> <th>回数</th> <th>時間</th> <th>学習内容</th> <th>方法</th> <th>備考(教材等)</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>2</td> <td>地域・在宅看護過程の考え方と展開方法①</td> <td>地域・在宅看護における看護過程の基本構造と考え方、ICFモデルと地域・在宅看護</td> <td>講義</td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td>4</td> <td>地域・在宅看護過程の考え方と展開方法②</td> <td>看護過程の進め方と関連図作成、療養者の望みを中心においた情報整理、計画作成</td> <td>講義</td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td>6</td> <td>事例の展開</td> <td>訪問看護を利用している療養者の看護過程</td> <td>講義 個人ワーク</td> <td></td> </tr> <tr> <td>4</td> <td>8</td> <td>〃</td> <td>〃</td> <td>GW</td> <td></td> </tr> <tr> <td>5</td> <td>10</td> <td>〃</td> <td>〃</td> <td>GW</td> <td></td> </tr> <tr> <td>6</td> <td>12</td> <td>〃</td> <td>〃</td> <td>GW</td> <td></td> </tr> <tr> <td>7</td> <td>14</td> <td>〃</td> <td>〃</td> <td>GW</td> <td></td> </tr> <tr> <td>8</td> <td>16</td> <td>〃</td> <td>〃</td> <td>GW</td> <td>発表</td> </tr> <tr> <td>9</td> <td>18</td> <td>地域共生社会における他職種連携・チームでの協働</td> <td>看護師が果たす役割、地域在宅看護実践における多職種チーム</td> <td>講義</td> <td></td> </tr> <tr> <td>10</td> <td>20</td> <td>地域・在宅看護マネジメント①</td> <td>地域・在宅ケアマネジメントとは、多様な場における地域・在宅看護マネジメント</td> <td>講義</td> <td></td> </tr> <tr> <td>11</td> <td>22</td> <td>地域・在宅看護マネジメント②</td> <td>退院支援の事例から考える</td> <td>講義 GW</td> <td></td> </tr> <tr> <td>12</td> <td>24</td> <td>地域・在宅看護マネジメント③</td> <td>〃</td> <td>GW</td> <td></td> </tr> <tr> <td>13</td> <td>26</td> <td>地域・在宅看護マネジメント④</td> <td>外来、介護保険の場における地域・在宅看護、地域包括支援センターの看護職が行うマネジメント</td> <td>講義</td> <td></td> </tr> <tr> <td>14</td> <td>28</td> <td>地域・在宅看護活動の創造と展開例①</td> <td>住民と行う地域・在宅看護マネジメント、活動の創造として「暮らしの保健室」</td> <td>講義</td> <td></td> </tr> <tr> <td>15</td> <td>30</td> <td>地域・在宅看護活動の創造と展開例②</td> <td>様々な地域・在宅看護活動の展開例 訪問時のマナー</td> <td>講義 演習</td> <td></td> </tr> </tbody> </table>						回数	時間	学習内容	方法	備考(教材等)	1	2	地域・在宅看護過程の考え方と展開方法①	地域・在宅看護における看護過程の基本構造と考え方、ICFモデルと地域・在宅看護	講義		2	4	地域・在宅看護過程の考え方と展開方法②	看護過程の進め方と関連図作成、療養者の望みを中心においた情報整理、計画作成	講義		3	6	事例の展開	訪問看護を利用している療養者の看護過程	講義 個人ワーク		4	8	〃	〃	GW		5	10	〃	〃	GW		6	12	〃	〃	GW		7	14	〃	〃	GW		8	16	〃	〃	GW	発表	9	18	地域共生社会における他職種連携・チームでの協働	看護師が果たす役割、地域在宅看護実践における多職種チーム	講義		10	20	地域・在宅看護マネジメント①	地域・在宅ケアマネジメントとは、多様な場における地域・在宅看護マネジメント	講義		11	22	地域・在宅看護マネジメント②	退院支援の事例から考える	講義 GW		12	24	地域・在宅看護マネジメント③	〃	GW		13	26	地域・在宅看護マネジメント④	外来、介護保険の場における地域・在宅看護、地域包括支援センターの看護職が行うマネジメント	講義		14	28	地域・在宅看護活動の創造と展開例①	住民と行う地域・在宅看護マネジメント、活動の創造として「暮らしの保健室」	講義		15	30	地域・在宅看護活動の創造と展開例②	様々な地域・在宅看護活動の展開例 訪問時のマナー	講義 演習	
回数	時間	学習内容	方法	備考(教材等)																																																																																																
1	2	地域・在宅看護過程の考え方と展開方法①	地域・在宅看護における看護過程の基本構造と考え方、ICFモデルと地域・在宅看護	講義																																																																																																
2	4	地域・在宅看護過程の考え方と展開方法②	看護過程の進め方と関連図作成、療養者の望みを中心においた情報整理、計画作成	講義																																																																																																
3	6	事例の展開	訪問看護を利用している療養者の看護過程	講義 個人ワーク																																																																																																
4	8	〃	〃	GW																																																																																																
5	10	〃	〃	GW																																																																																																
6	12	〃	〃	GW																																																																																																
7	14	〃	〃	GW																																																																																																
8	16	〃	〃	GW	発表																																																																																															
9	18	地域共生社会における他職種連携・チームでの協働	看護師が果たす役割、地域在宅看護実践における多職種チーム	講義																																																																																																
10	20	地域・在宅看護マネジメント①	地域・在宅ケアマネジメントとは、多様な場における地域・在宅看護マネジメント	講義																																																																																																
11	22	地域・在宅看護マネジメント②	退院支援の事例から考える	講義 GW																																																																																																
12	24	地域・在宅看護マネジメント③	〃	GW																																																																																																
13	26	地域・在宅看護マネジメント④	外来、介護保険の場における地域・在宅看護、地域包括支援センターの看護職が行うマネジメント	講義																																																																																																
14	28	地域・在宅看護活動の創造と展開例①	住民と行う地域・在宅看護マネジメント、活動の創造として「暮らしの保健室」	講義																																																																																																
15	30	地域・在宅看護活動の創造と展開例②	様々な地域・在宅看護活動の展開例 訪問時のマナー	講義 演習																																																																																																
終講試験																																																																																																				
<事前学習> ICFの概念について																																																																																																				
<テキスト等の準備物品> 医学書院 地域・在宅看護の実践 地域・在宅看護論2																																																																																																				
<評価方法> 終講試験、グループワーク参加状況、提出物																																																																																																				

科目名		時間数	単位	実施時期	講義担当者																																																																																			
成人看護学概論		20	1	1年次	白井 美緒 本田 知久(4)																																																																																			
<学習目標> 1. 成人期にある人のライフサイクルからみた特徴について理解する。 2. 成人各期における健康問題の特徴と支援するための基本的な考え方を理解する。 3. 成人期にある人の人口統計の動向と、健康保持増進、疾病予防のための保健活動を理解する。 4. 保健・医療・福祉チームにおける多職種連携と看護の役割がわかる。					病院で看護師・理学療法士として勤務経験あり																																																																																			
<授業計画> <table border="1"> <thead> <tr> <th>回数</th> <th>時間</th> <th>学習内容</th> <th>方法</th> <th>備考(教材等)</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>2</td> <td>成人看護の対象</td> <td>成人期の定義、成人期にある人の理解、社会の姿とともに変化するライフサイクル各成長・発達過程からみた成人の特徴</td> <td>講義</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td>4</td> <td>成人を取り巻く環境と成人の生活</td> <td>働くことの意味、経済社会との関係性、職業生活が健康に及ぼす影響、家族との関係、多様なライフスタイル</td> <td>講義</td> </tr> <tr> <td>3</td> <td>6</td> <td rowspan="2">成人の健康の動向と保健・医療・福祉政策</td> <td>保健統計からみた成人の健康の動向 成人を対象とした保健・医療・福祉政策</td> <td>講義</td> </tr> <tr> <td>4</td> <td>8</td> <td>成人各期に特徴的な健康問題</td> <td>講義</td> </tr> <tr> <td>5</td> <td>10</td> <td rowspan="2">健康障害をもつ成人にかかわる際の基本的視点</td> <td>健康障害をもつことの意味、健康生活を支える人間関係の構築、患者の権利と権利擁護、インフォームドコンセント</td> <td>講義</td> </tr> <tr> <td>6</td> <td>12</td> <td>健康の危機、ストレスとコーピング、危機理論、自己効力、アンドラゴジー、エンパワーメント</td> <td>講義</td> </tr> <tr> <td>7</td> <td>14</td> <td rowspan="3">成人の健康状態に応じた看護</td> <td>ヘルスプロモーションとヘルスリテラシー、健康行動理論急性期・周手術期にある成人の理解と看護</td> <td>講義</td> <td>*詳細は周手術期と看護で履修する</td> </tr> <tr> <td>8</td> <td>16</td> <td>慢性期・終末期にある成人の理解と看護</td> <td>講義</td> <td>*詳細は終末期と看護で履修する</td> </tr> <tr> <td>9</td> <td>18</td> <td>リハビリテーション期にある成人の理解と看護</td> <td>講義・演習</td> <td rowspan="2">理学療法士による講義</td> </tr> <tr> <td>10</td> <td>20</td> <td>地域・在宅への継続医療と看護</td> <td>講義・演習</td> </tr> <tr> <td>11</td> <td>22</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>12</td> <td>24</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>13</td> <td>26</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>14</td> <td>28</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>15</td> <td>30</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>						回数	時間	学習内容	方法	備考(教材等)	1	2	成人看護の対象	成人期の定義、成人期にある人の理解、社会の姿とともに変化するライフサイクル各成長・発達過程からみた成人の特徴	講義	2	4	成人を取り巻く環境と成人の生活	働くことの意味、経済社会との関係性、職業生活が健康に及ぼす影響、家族との関係、多様なライフスタイル	講義	3	6	成人の健康の動向と保健・医療・福祉政策	保健統計からみた成人の健康の動向 成人を対象とした保健・医療・福祉政策	講義	4	8	成人各期に特徴的な健康問題	講義	5	10	健康障害をもつ成人にかかわる際の基本的視点	健康障害をもつことの意味、健康生活を支える人間関係の構築、患者の権利と権利擁護、インフォームドコンセント	講義	6	12	健康の危機、ストレスとコーピング、危機理論、自己効力、アンドラゴジー、エンパワーメント	講義	7	14	成人の健康状態に応じた看護	ヘルスプロモーションとヘルスリテラシー、健康行動理論急性期・周手術期にある成人の理解と看護	講義	*詳細は周手術期と看護で履修する	8	16	慢性期・終末期にある成人の理解と看護	講義	*詳細は終末期と看護で履修する	9	18	リハビリテーション期にある成人の理解と看護	講義・演習	理学療法士による講義	10	20	地域・在宅への継続医療と看護	講義・演習	11	22					12	24					13	26					14	28					15	30				
回数	時間	学習内容	方法	備考(教材等)																																																																																				
1	2	成人看護の対象	成人期の定義、成人期にある人の理解、社会の姿とともに変化するライフサイクル各成長・発達過程からみた成人の特徴	講義																																																																																				
2	4	成人を取り巻く環境と成人の生活	働くことの意味、経済社会との関係性、職業生活が健康に及ぼす影響、家族との関係、多様なライフスタイル	講義																																																																																				
3	6	成人の健康の動向と保健・医療・福祉政策	保健統計からみた成人の健康の動向 成人を対象とした保健・医療・福祉政策	講義																																																																																				
4	8		成人各期に特徴的な健康問題	講義																																																																																				
5	10	健康障害をもつ成人にかかわる際の基本的視点	健康障害をもつことの意味、健康生活を支える人間関係の構築、患者の権利と権利擁護、インフォームドコンセント	講義																																																																																				
6	12		健康の危機、ストレスとコーピング、危機理論、自己効力、アンドラゴジー、エンパワーメント	講義																																																																																				
7	14	成人の健康状態に応じた看護	ヘルスプロモーションとヘルスリテラシー、健康行動理論急性期・周手術期にある成人の理解と看護	講義	*詳細は周手術期と看護で履修する																																																																																			
8	16		慢性期・終末期にある成人の理解と看護	講義	*詳細は終末期と看護で履修する																																																																																			
9	18		リハビリテーション期にある成人の理解と看護	講義・演習	理学療法士による講義																																																																																			
10	20	地域・在宅への継続医療と看護	講義・演習																																																																																					
11	22																																																																																							
12	24																																																																																							
13	26																																																																																							
14	28																																																																																							
15	30																																																																																							
終講試験																																																																																								
<事前学習>																																																																																								
<テキスト等の準備物品> 新体系 成人看護学概論/成人保健 (メヂカルフレンド社)																																																																																								
<評価方法> 終講試験、授業態度																																																																																								

科目名		時間数	単位	実施時期	講義担当者
成人看護学 I		30	1	1年次	白井 美緒
<学習目標> 1. 急性期にある対象の特徴と看護の役割が理解できる。 2. 急性期にある対象の生命維持、苦痛緩和への援助方法が理解できる。 3. 慢性疾患を持つ対象とその家族の特徴、看護の役割が理解できる。 4. 慢性期にある対象とその家族に対し、疾病コントロールに必要な健康教育を理解できる。					病院で看護師として勤務経験あり
<授業計画>					
回数	時間	学習内容		方法	備考（教材等）
1	2	クリティカルケア 看護の基本	クリティカルケア看護とは、 クリティカルケア看護の対象	講義	
2	4	クリティカルな状態にある患者の全身管理と日常生活への支援	全身管理 呼吸管理、体液・循環管理、体温、栄養管理、代謝 管理鎮痛・鎮静管理、感染予防	講義	
3	6		演習		
4	8		日常性への支援 ポジショニング、清潔ケア、口腔ケア、排泄ケア リハビリテーション、コミュニケーション	講義	
5	10		演習		
6	12	臨床判断プロセスの 可視化	意識障害、呼吸困難、胸痛、腹痛、浮腫、ショック せん妄	講義	
7	14	クリティカルな状態にある患者と家族の看護	急性呼吸窮迫症候群、大動脈解離、くも膜下出血患者の看護	講義	
8	16		播種性血管内凝固症候群、多臓器機能障害患者の看護	講義	
9	18	慢性期にある人と家族の 理解	慢性期における身体的・心理的・社会的側面の特徴 慢性期看護の機能・役割・場について	講義	
10	20	慢性期にある人・家族への 看護	慢性閉塞性肺疾患、気管支喘息患者の看護	講義	
11	22		慢性心不全、白血病患者の看護	講義	
12	24		潰瘍性大腸炎、脳梗塞後遺症患者の看護	講義	
13	26		パーキンソン病、慢性腎臓病患者の看護	講義	
14	28		2型糖尿病、全身性エリテマトーデス患者の看護	講義	
15	30		関節リウマチ、筋萎縮性側索硬化症患者の看護	講義	
終講試験					
<事前学習>					
<テキスト等の準備物品>					
新体系 経過別成人看護学①急性期看護：クリティカルケア 新体系 経過別成人看護学③慢性期看護 (メヂカルフレンド社)					
<評価方法>					
筆記試験、授業態度					

科目名		時間数	単位	実施時期	講義担当者
成人看護学Ⅱ		30	1	1年次	白井 美緒
<学習目標> 1. 急性期・慢性期にある対象とその家族に対する援助方法が理解できる。 2. 地域で暮らす健康な成人期にある人の保健活動を理解する。 3. 看護過程を展開し、成人期にある人の看護について理解できる。					病院で看護師として勤務経験あり
<授業計画>					
回数	時間	学習内容		方法	備考（教材等）
1	2	地域で暮らす健康な成人の理解	地域における保健活動について ガイダンス	講義	
2	4		バス健診や巡回健診、市の健診センターなどの見学学習 ・地域で暮らす健康な成人への健康教育 ・生活習慣病対策のあれこれ ・企業行われている健診、健康教育、職業別健康セミナーなど 各施設の学びの共有と発表	講義・演習	
3	6				
4	8				
5	10	急性期にある患者の日常性への支援	急変時の対応、心肺蘇生（一次・二次救命処置）	講義・演習	*心肺蘇生法の基礎知識・一次救命処置は基礎看護技術IVで履修する
6	12		熱傷、外傷患者の病態と援助方法	講義・演習	
7	14	慢性期にある患者への日常性の支援	下降期・臨死期にある患者と家族支援 エンジェルケア	講義・演習	
8	16				
9	18	看護過程の事例展開	看護過程の事例展開 （フェイスシート、14項目アセスメントを記載する）	個人ワーク	
10	20		周術期看護の看護展開 （フェイスシート、14項目アセスメントを記載する）	グループワーク	
11	22		周術期看護の看護展開 （グループで14項目のアセスメントを共有する。関連図を作成し、看護問題を抽出する）	グループワーク	
12	24		周術期看護の看護展開 （看護問題優先順位の決定、看護計画を立案する）	グループワーク	
13	26		周術期看護の看護展開 （グループ発表）	グループワーク （発表）	
14	28		周術期看護の看護展開 （退院指導のパンフレット内容検討、作成）	グループワーク	
15	30		周術期看護の看護展開 （パンフレットを用いた退院指導を実施する）	グループワーク （発表）	
終講試験					
<事前学習> 胃がんの病態生理・検査・治療・看護 成人期の特徴、14項目アセスメント					
<テキスト等の準備物品> 新体系 経過別成人看護学①急性期看護：クリティカルケア 新体系 経過別成人看護学③慢性期看護（メヂカルフレンド社）					
<評価方法> 筆記試験（70点）、授業態度、演習課題（20点）、一次・二次予防についての自己の考え（10点）					

科目名		時間数	単位	実施時期	講義担当者
老年看護学概論		15	1	1年次	近内 絵里
<学習目標> 1. 加齢に伴う身体的・精神的・社会的機能の変化を理解できる。 2. 高齢者のライフサイクルと発達課題を理解できる。 3. 高齢者を取り巻く保健・医療・福祉制度を理解できる。 4. 高齢者の権利擁護について理解できる。					病院で看護師として勤務経験あり
回数	時間	学習内容		方法	備考(教材等)
1	2	高齢者の理解	高齢者人口の推移と特徴/多様な高齢者像/高齢者の健康のとらえかた/高齢者の生きてきた時代/ライフサイクルと発達課題	講義	PP
2	4	高齢者の身体的特徴	老化のメカニズム/老化と加齢/身体的特徴/知的機能・認知機能の特徴 心理的特徴	講義	PP
3	6	高齢者の生活	高齢者の生活を考える視点/経済と住まい/家族の状況 生きがいと生活/身体機能・認知機能低下による生活への影響	講義	PP
4	8	老年看護学とは何か	老年看護のなりたち/老年看護の役割/老年看護の目標/老年看護の場と期待される役割	講義	PP
5	10	老年看護を支える理論・概念	老年看護における看護理論/セルフケア・オレム コンフォート理論/ピープル・センタード・ケア/ ストレングスモデル/エンパワメント理論/	講義	PP
6	12	高齢者を取り巻く保健医療福祉制度	日本における保健医療福祉制度の変遷/健康づくりに関する制度・法律/介護保険制度/生活を支える地域包括ケアシステム/後期高齢者制度	講義	PP
7	14	高齢者の権利擁護	権利擁護と意思決定支援/高齢者に対する虐待 身体拘束/高齢者の権利を守る制度	講義	PP
8	16			ディベート	PP
9	18				
10	20				
11	22				
12	24				
13	26				
14	28				
15	30				
終講試験					
<事前学習>					
<テキスト等の準備物品>					
老年看護学① 老年看護学概論/老年保健 老年看護学② 健康障害をもつ高齢者の看護 メヂカルフレンド社					
<評価方法>					
出席状況、授業態度、課題への取り組み、終講試験					

科目名		時間数	単位	実施時期	講義担当者
老年看護学Ⅰ		30	1	1年次	近内 絵里
<学習目標> 1. 加齢による身体的変化を知り、高齢者への関わりを考えることができる。 2. 身体面、精神面、社会面など包括的にアセスメントする視点を養い、高齢者のフィジカルアセスメントの方法を理解できる。 3. 高齢者の日常生活を支える援助を学ぶことができる。					病院で看護師として勤務経験あり
回数	時間	学習内容		方法	備考(教材等)
1	2	高齢者の身体的特徴	高齢者疑似体験	講義 GW	PP
2	4	高齢者の身体的特徴	高齢者疑似体験後グループワーク	講義 GW	PP
3	6	高齢者のヘルスプロモーション	高齢者の健康/介護予防 認知症予防/生活習慣病予防	講義	PP
4	8	高齢者の経過別にみた看護	高齢者の急性期における看護	講義	PP
5	10	高齢者の経過別にみた看護	リハビリテーション看護/ 慢性期における看護/	講義	PP
6	12	外来における老年看護	救急外来における老年看護/ 救急外来における老年看護	講義	PP
7	14	治療における老年看護	高齢者に対する薬物療法/服薬管理/ 高齢者に対する化学療法・放射線療法	講義	PP
8	16	地域・在宅における老年看護	老年看護における地域・在宅とは/ 退院支援/在宅看護/施設看護	講義	PP
9	18	健康障害をもつ高齢者の家族への看護	高齢者を取り巻く家族の状況/ 介護する家族の状況/ 介護する家族への看護	講義	PP
10	20	高齢者特有のリスクマネジメント	高齢者における医療安全	講義	PP
11	22	高齢者特有のリスクマネジメント	高齢者における災害看護	講義	PP
12	24	高齢者のアセスメント	高齢者の特徴とアセスメントの基本/ 高齢者総合評価(CGA)/ 高齢者のフィジカルアセスメント	講義	PP
13	26	高齢者のくらしを支える援助	高齢者のコミュニケーションの援助 基本動作の援助 転倒・転落予防への援助	講義	PP
14	28	高齢者のくらしを支える援助	高齢者への排泄の援助/ 高齢者への清潔・整容の援助/ 高齢者への休息・睡眠の援助	講義	PP
15	30	高齢者のくらしを支える援助	高齢者への環境整備/高齢者への食事の援助/ 高齢者へのセクシュアリティを考慮した援助/ 社会参加を促す援助	講義	PP
終講試験					
<事前学習>  <テキスト等の準備物品> 老年看護学② 健康障害をもつ高齢者の看護 メヂカルフレンド社					
<評価方法> 出席状況、授業態度、課題への取り組み、終講試験					

科目名		時間数	単位	実施時期	講義担当者
老年看護学Ⅱ		30	1	1年次	近内絵里 田辺 晃子(6)
<学習目標> 1. 高齢者に発症しやすい症状を理解し、健康上の課題をもつ高齢者への看護を理解できる。 2. 高齢者に発症しやすい疾患と看護の特徴を理解できる。					病院で看護師として勤務経験あり
<授業計画>					
回数	時間	学習内容		方法	備考(教材等)
1	2	高齢者特有の症状と看護	高齢者のめまいと看護/ 高齢者の脱水と看護/ 高齢者のかゆみと看護	講義	PP
2	4	高齢者特有の症状と看護	高齢者の褥瘡と看護/ 高齢者の熱中症と看護/ 高齢者の痛みと看護	講義	PP
3	6	高齢者特有の症状と看護	高齢者の呼吸困難・息切れと看護/ 高齢者の食欲不振・体重減少と看護/ 高齢者の歩き回りと看護	講義	PP
4	8	高齢者特有の症状と看護	高齢者の集中力低下と看護/ 高齢者のフレイル、オーラルフレイル、ロコモ、 サルコペニア肥満と看護	講義	PP
5	10	高齢者特有の疾患と看護	認知症と看護	講義 DVD	※認知症の疾患については精神看護学でも学ぶ。
6	12	高齢者特有の疾患と看護	認知症と看護	講義 DVD	※認知症の看護については認知症ケア認定看護師講義のあり。
7	14	高齢者特有の疾患と看護	認知症と看護	講義 DVD	PP DVD
8	16	高齢者特有の疾患と看護	心不全・高血圧患者の看護 慢性閉塞性肺疾患・肺がん患者の看護	講義	PP
9	18	高齢者特有の疾患と看護	胃食道逆流症/大腸憩室症/虚血性大腸炎患者の看護 甲状腺疾患/脂質異常症/水・電解質異常患者の看護	講義	PP
10	20	高齢者特有の疾患と看護	腎不全/尿路感染症/前立腺疾患患者の看護 大腿骨頸部骨折/変形性膝関節症/骨粗鬆症患者の看護	講義	PP
11	22	高齢者特有の疾患と看護	白癬/疥癬患者の看護 緑内障/加齢性黄斑変性/白内障/難聴患者の看護	講義	PP
12	24	高齢者特有の疾患と看護	う蝕/歯周疾患患者の看護/オーラルフレイル (高齢者の口腔健康管理・義歯の管理・ブラッシングの方法)	講義 演習	PP
13	26	高齢者特有の疾患と看護	事例に合わせた援助の実際	講義 演習	PP
14	28	高齢者特有の疾患と看護	事例に合わせた援助の実際	講義 演習	PP
15	30	高齢者特有の疾患と看護	事例に合わせた援助の実際	講義 演習	PP
終講試験					
<事前学習>					
<テキスト等の準備物品> 老年看護学② 健康障害をもつ高齢者の看護 メヂカルフレンド社					
<評価方法> 出席状況、授業態度、課題への取り組み、終講試験					

科目名		時間数	単位	実施時期	講義担当者																																																																										
小児看護学概論		15	1	1年次	井手田 理恵																																																																										
<学習目標> 1. 小児各期の成長・発達の特徴を理解し、健康増進のための看護を学ぶことができる。 2. 現代社会における小児とその家族を取り巻く環境を学び、看護の役割について考えることができる。					病院で看護師として勤務経験あり																																																																										
<授業計画> <table border="1" style="width:100%; border-collapse: collapse;"> <thead> <tr> <th>回数</th> <th>時間</th> <th>学習内容</th> <th>方法</th> <th>備考 (教材等)</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>2</td> <td>小児看護の目的・役割 小児看護の課題・倫理 (子どもの権利) 小児にかかわる統計</td> <td>講義</td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td>4</td> <td rowspan="2">子どもを取り巻く 環境・社会 児童福祉法 母子保健 予防接種 学校保健 未熟児養育医療 難病等</td> <td>ディスカッション</td> <td>事前に雑誌・記事を読み話題を準備</td> </tr> <tr> <td>3</td> <td>6</td> <td>講義</td> <td>事後にレポート提出 (評価対象)</td> </tr> <tr> <td>4</td> <td>8</td> <td>乳児期にある小児の 成長発達 成長発達の原則 身体的な成長発達の特徴</td> <td rowspan="5">講義 成長発達 ワークシートへの記載</td> <td>*新生児の生理は母性看護学で学ぶ</td> </tr> <tr> <td>5</td> <td>10</td> <td rowspan="2">幼児期にある小児の 成長発達 幼児期にある小児の成長発達と日常生活の世話 運動機能、感覚機能、知的機能・コミュニケーション機能、情緒・社会的機能、 日常生活の自立と世話</td> <td>*ワークシート (評価対象)</td> </tr> <tr> <td>6</td> <td>12</td> <td></td> </tr> <tr> <td>7</td> <td>14</td> <td>学童期にある小児の 成長発達 学童期にある小児の成長の特徴 不適応行動・症状</td> <td></td> </tr> <tr> <td>8</td> <td>16</td> <td>思春期にある小児の 成長発達 思春期にある小児の成長の課題 身体生理の特徴 心理・社会的適応に関する問題</td> <td></td> </tr> <tr> <td>9</td> <td>18</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>10</td> <td>20</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>11</td> <td>22</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>12</td> <td>24</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>13</td> <td>26</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>14</td> <td>28</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>15</td> <td>30</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>						回数	時間	学習内容	方法	備考 (教材等)	1	2	小児看護の目的・役割 小児看護の課題・倫理 (子どもの権利) 小児にかかわる統計	講義		2	4	子どもを取り巻く 環境・社会 児童福祉法 母子保健 予防接種 学校保健 未熟児養育医療 難病等	ディスカッション	事前に雑誌・記事を読み話題を準備	3	6	講義	事後にレポート提出 (評価対象)	4	8	乳児期にある小児の 成長発達 成長発達の原則 身体的な成長発達の特徴	講義 成長発達 ワークシートへの記載	*新生児の生理は母性看護学で学ぶ	5	10	幼児期にある小児の 成長発達 幼児期にある小児の成長発達と日常生活の世話 運動機能、感覚機能、知的機能・コミュニケーション機能、情緒・社会的機能、 日常生活の自立と世話	*ワークシート (評価対象)	6	12		7	14	学童期にある小児の 成長発達 学童期にある小児の成長の特徴 不適応行動・症状		8	16	思春期にある小児の 成長発達 思春期にある小児の成長の課題 身体生理の特徴 心理・社会的適応に関する問題		9	18				10	20				11	22				12	24				13	26				14	28				15	30			
回数	時間	学習内容	方法	備考 (教材等)																																																																											
1	2	小児看護の目的・役割 小児看護の課題・倫理 (子どもの権利) 小児にかかわる統計	講義																																																																												
2	4	子どもを取り巻く 環境・社会 児童福祉法 母子保健 予防接種 学校保健 未熟児養育医療 難病等	ディスカッション	事前に雑誌・記事を読み話題を準備																																																																											
3	6		講義	事後にレポート提出 (評価対象)																																																																											
4	8	乳児期にある小児の 成長発達 成長発達の原則 身体的な成長発達の特徴	講義 成長発達 ワークシートへの記載	*新生児の生理は母性看護学で学ぶ																																																																											
5	10	幼児期にある小児の 成長発達 幼児期にある小児の成長発達と日常生活の世話 運動機能、感覚機能、知的機能・コミュニケーション機能、情緒・社会的機能、 日常生活の自立と世話		*ワークシート (評価対象)																																																																											
6	12																																																																														
7	14	学童期にある小児の 成長発達 学童期にある小児の成長の特徴 不適応行動・症状																																																																													
8	16	思春期にある小児の 成長発達 思春期にある小児の成長の課題 身体生理の特徴 心理・社会的適応に関する問題																																																																													
9	18																																																																														
10	20																																																																														
11	22																																																																														
12	24																																																																														
13	26																																																																														
14	28																																																																														
15	30																																																																														
終講試験																																																																															
<事前学習>																																																																															
<テキスト等の準備物品> 小児看護①小児看護概論／小児保健：メヂカルフレンド社 小児看護②健康障害を持つ小児の看護／小児保健：メヂカルフレンド社																																																																															
<評価方法> 終講試験 レポート ワークシート																																																																															

科目名		時間数	単位	実施時期	講義担当者	
小児看護学 I		30	1	1年次	菊池 信太郎(14) 井手田 理恵(16) 病院で医師・看護師として 勤務経験あり	
<p>&lt;学習目標&gt;</p> <p>1. 小児の代表的疾患について、病態・治療が理解できる。 2. 健康問題や障害が小児とその家族に与える影響とその看護を理解することができる。 3. 小児期にみられる主な症状と経過の特徴に応じた看護を理解することができる。</p> <p>&lt;授業計画&gt;</p>						
回数	時間	学習内容	方法	備考(教材等)		
1	2	先天異常 代謝性疾患	ダウン症候群 クラインフェルター症候群 ターナー症候群 口唇口蓋裂 二分脊椎 水頭症 尿道下裂 先天代謝異常症(フェニルケトン尿症など) 糖尿病	講義	菊池 信太郎	
2	4	皮膚疾患 感染症 アレルギー疾患	小児の皮膚の特徴 血管腫と母斑症 伝染性皮膚疾患細菌 性感染症(結核 百日咳 伝染性膿疱疹) ウイルス感染 症(麻疹 風疹 水痘/带状疱疹 ロタ流行性耳下腺炎 アデノ エンテロ RS ノロ HSV 突発性発疹 伝染性単核球症 先天性サイトメガロ 気管支炎 アトピー	講義		
3	6			講義		
4	8	呼吸器疾患 循環器疾患 消化器疾患 腎泌尿器疾患	急性上気道炎 クループ 肺炎 乳幼児突然死症候群 胎児循環・新生児循環 先天性心疾患(心室中隔欠損症 動脈開存症 ファロー四徴症など) 後天性心疾患(川崎病など) ヒルシュスプリング病 腸重積 乳児下痢症 胆道閉鎖症 肥厚性幽門狭窄症 鎖肛	講義		
5	10			講義		
6	12	腎泌尿器疾患 運動器疾患 神経・筋疾患 血液疾患 神経発達症群	ネフローゼ症候群 ウィルムス腫瘍など 運動器疾患(先天性疾患 小児の骨折) てんかん 脳性麻痺 筋ジストロフィー 脳炎・脳症 小児がん 白血病など 自閉症スペクトラム障害 ADHD	講義		
7	14			講義		
8	16	健康問題・障害のある 小児の看護	小児の病気の理解と説明 病気や診療・入院が小児に与える 影響 小児の病気がきょうだい・家族に及ぼす影響と 看護支援 ドナルド・マクドナルドハウスについて	講義		家族支援について事前学習
9	18	小児にみられる 主な症状と看護①	啼泣、発熱、脱水、痛み時の看護 小児の身体的・生理的特徴と疾患との関連性 アセスメントの視点	講義 GW		
10	20	小児にみられる 主な症状と看護②	悪心・嘔吐、下痢、発疹、呼吸困難児の看護 小児の身体的・生理的特徴と疾患との関連性 アセスメントの視点	講義		
11	22	急性期・慢性期にある 小児の看護	急性期にある小児とその家族への看護 慢性期にある小児とその家族への看護	講義		井手田 理恵
12	24	様々な状況にある 小児の看護	活動制限が必要な小児とその家族への看護 痛みを表現している小児とその家族への看護 心身障害のある小児とその家族への看護	講義		
13	26		長期的経過をたどる疾患をもつ小児とその家族の看護 在宅・地域で医療的ケアを必要とする小児とその家族への 看護	講義		
14	28	特殊な状況下にある 小児の看護	心の問題を抱えている小児とその家族への看護 虐待を受けている小児とその家族への看護 (児童虐待防止法)	講義		
15	30		災害を受けた小児とその家族への看護 DVD 救急処置が必要な小児とその家族への看護 DVD	演習		
終講試験						
<事前学習>						
<テキスト等の準備物品>						
小児看護①小児看護概論/小児保健:メヂカルフレンド社 小児看護②健康障害を持つ小児の看護/小児保健:メヂカルフレンド社						
<評価方法>						
筆記試験 (疾患について50点 看護について50点)						

科目名		時間数	単位	実施時期	講義担当者																																																																																							
小児看護学Ⅱ		30	1	1年次	井手田 理恵																																																																																							
<学習目標> 1. 検査・治療・処置が必要な小児に対し、発達段階を考慮し、尊厳を踏まえた援助を理解することができる。 2. 健康問題・障害を持つ小児とその家族に対し、紙上事例を用いて看護過程を展開することができる。					病院で看護師として勤務経験あり																																																																																							
<授業計画> <table border="1" style="width:100%; border-collapse: collapse;"> <thead> <tr> <th>回数</th> <th>時間</th> <th>学習内容</th> <th>方法</th> <th>備考（教材等）</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>2</td> <td rowspan="2">ヘルスアセスメントの身体計測、バイタルサインの測定のアセスメント 手法 一般状態 ヘルスアセスメント</td> <td>講義</td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td>4</td> <td>講義</td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td>6</td> <td rowspan="3">検査・処置の手法 事例に応じた採血・採尿・骨髄穿刺・与薬・注射・酸素療法・吸入・輸液時の援助 *事例に基づいた実践的な小児看護技術を実施する</td> <td rowspan="3">事例を用いた演習</td> <td></td> </tr> <tr> <td>4</td> <td>8</td> <td></td> </tr> <tr> <td>5</td> <td>10</td> <td></td> </tr> <tr> <td>6</td> <td>12</td> <td>意思決定のための心理的支援① 子どもの権利条約 インフォームドコンセントとインフォームドアセント プレパレーションとは</td> <td>講義</td> <td></td> </tr> <tr> <td>7</td> <td>14</td> <td>意思決定のための心理的支援② プレパレーションの実際 入院時 検査・処置に向けての心の準備 手術に向けての心の準備</td> <td>講義</td> <td></td> </tr> <tr> <td>8</td> <td>16</td> <td>意思決定のための心理的支援③ 小児各期の発達段階に沿ったプレパレーション 家族へのプレパレーション プレパレーション時の多職種連携</td> <td>講義</td> <td></td> </tr> <tr> <td>9</td> <td>18</td> <td rowspan="7">健康問題・障害をもつ小児の看護過程 事例による看護過程の展開 -川崎病 幼児前期- -ネフローゼ症候群 白血病 学童期-</td> <td rowspan="7">演習 (個人・GW)</td> <td></td> </tr> <tr> <td>10</td> <td>20</td> <td></td> </tr> <tr> <td>11</td> <td>22</td> <td>1) いずれかの疾患を選択し看護展開を行う ・疾患、症状、治療、検査、発達段階、看護の理解 (個人)</td> </tr> <tr> <td>12</td> <td>24</td> <td>・紙上事例の情報分類・整理 (個人) ・情報のアセスメント (個人) ・全体像の把握 (GW) ・看護目標の設定、計画立案 (GW)</td> </tr> <tr> <td>13</td> <td>26</td> <td>2) 疾患別のグループによる看護過程展開の発表</td> </tr> <tr> <td>14</td> <td>28</td> <td></td> </tr> <tr> <td>15</td> <td>30</td> <td></td> </tr> <tr> <td colspan="6" style="text-align: center;">終講試験</td> </tr> <tr> <td colspan="6">           &lt;事前学習&gt;         </td> </tr> <tr> <td colspan="6">           &lt;テキスト等の準備物品&gt;            小児看護①小児看護概論／小児保健：メヂカルフレンド社            小児看護②健康障害を持つ小児の看護／小児保健：メヂカルフレンド社         </td> </tr> <tr> <td colspan="6">           &lt;評価方法&gt;            看護過程の展開状況 演習状況 レポート         </td> </tr> </tbody> </table>						回数	時間	学習内容	方法	備考（教材等）	1	2	ヘルスアセスメントの身体計測、バイタルサインの測定のアセスメント 手法 一般状態 ヘルスアセスメント	講義		2	4	講義		3	6	検査・処置の手法 事例に応じた採血・採尿・骨髄穿刺・与薬・注射・酸素療法・吸入・輸液時の援助 *事例に基づいた実践的な小児看護技術を実施する	事例を用いた演習		4	8		5	10		6	12	意思決定のための心理的支援① 子どもの権利条約 インフォームドコンセントとインフォームドアセント プレパレーションとは	講義		7	14	意思決定のための心理的支援② プレパレーションの実際 入院時 検査・処置に向けての心の準備 手術に向けての心の準備	講義		8	16	意思決定のための心理的支援③ 小児各期の発達段階に沿ったプレパレーション 家族へのプレパレーション プレパレーション時の多職種連携	講義		9	18	健康問題・障害をもつ小児の看護過程 事例による看護過程の展開 -川崎病 幼児前期- -ネフローゼ症候群 白血病 学童期-	演習 (個人・GW)		10	20		11	22	1) いずれかの疾患を選択し看護展開を行う ・疾患、症状、治療、検査、発達段階、看護の理解 (個人)	12	24	・紙上事例の情報分類・整理 (個人) ・情報のアセスメント (個人) ・全体像の把握 (GW) ・看護目標の設定、計画立案 (GW)	13	26	2) 疾患別のグループによる看護過程展開の発表	14	28		15	30		終講試験						<事前学習>						<テキスト等の準備物品> 小児看護①小児看護概論／小児保健：メヂカルフレンド社 小児看護②健康障害を持つ小児の看護／小児保健：メヂカルフレンド社						<評価方法> 看護過程の展開状況 演習状況 レポート					
回数	時間	学習内容	方法	備考（教材等）																																																																																								
1	2	ヘルスアセスメントの身体計測、バイタルサインの測定のアセスメント 手法 一般状態 ヘルスアセスメント	講義																																																																																									
2	4		講義																																																																																									
3	6	検査・処置の手法 事例に応じた採血・採尿・骨髄穿刺・与薬・注射・酸素療法・吸入・輸液時の援助 *事例に基づいた実践的な小児看護技術を実施する	事例を用いた演習																																																																																									
4	8																																																																																											
5	10																																																																																											
6	12	意思決定のための心理的支援① 子どもの権利条約 インフォームドコンセントとインフォームドアセント プレパレーションとは	講義																																																																																									
7	14	意思決定のための心理的支援② プレパレーションの実際 入院時 検査・処置に向けての心の準備 手術に向けての心の準備	講義																																																																																									
8	16	意思決定のための心理的支援③ 小児各期の発達段階に沿ったプレパレーション 家族へのプレパレーション プレパレーション時の多職種連携	講義																																																																																									
9	18	健康問題・障害をもつ小児の看護過程 事例による看護過程の展開 -川崎病 幼児前期- -ネフローゼ症候群 白血病 学童期-	演習 (個人・GW)																																																																																									
10	20																																																																																											
11	22			1) いずれかの疾患を選択し看護展開を行う ・疾患、症状、治療、検査、発達段階、看護の理解 (個人)																																																																																								
12	24			・紙上事例の情報分類・整理 (個人) ・情報のアセスメント (個人) ・全体像の把握 (GW) ・看護目標の設定、計画立案 (GW)																																																																																								
13	26			2) 疾患別のグループによる看護過程展開の発表																																																																																								
14	28																																																																																											
15	30																																																																																											
終講試験																																																																																												
<事前学習>																																																																																												
<テキスト等の準備物品> 小児看護①小児看護概論／小児保健：メヂカルフレンド社 小児看護②健康障害を持つ小児の看護／小児保健：メヂカルフレンド社																																																																																												
<評価方法> 看護過程の展開状況 演習状況 レポート																																																																																												

科目名		時間数	単位	実施時期	講義担当者
母性看護学概論		15	1	1年次	榊原 信子
<学習目標> 1.母性看護の基礎となる概念と看護の対象である家族を理解し、母性看護の役割や目的を学ぶことができる 2.母子保健の動向と施策を理解できる 3.ライフサイクル各期における特徴とリプロダクティブヘルスケアを理解することができる					病院で看護師として勤務経験あり
<授業計画>					
回数	時間	学習内容		方法	備考(教材等)
1	2	母性とは 母性看護とは 母子と家族の発達看護の場の特徴	母性、父性、親性の違い 母性看護の概念 母性看護に関わる職種と役割 母性看護の場と特徴	講義	
2	4	母性看護における主要な理論と看護	セクシュアリティ ウィメンズヘルス リプロダクティブヘルス/ライツ ヘルスプロモーション	講義	ワークシート
3	6	母子と家族の発達	家族の機能と発達 母子関係における家族の変化 家族の発達と課題	講義	ワークシート
4	8	母性看護の歴史と母子保健	母子保健統計 母子保健に関わる法律 主な保健施策 母子保健施策の展望と課題	講義	ワークシート
5	10	ライフサイクル各期における成長発達と看護	ライフサイクル各期の身体・心理・社会的成長・発達 ライフサイクル各期のヘルスプロモーション ライフサイクル各期の健康問題と看護	グループワーク	ワークシート
6	12	ライフサイクル各期における成長発達と看護		グループワーク	ワークシート
7	14	ライフサイクル各期における成長発達と看護		グループワーク (発表)	ワークシート
8	16				
9	18				
10	20				
11	22				
12	24				
13	26				
14	28				
15	30				
終講試験					
<事前学習> ワークシート					
<テキスト等の準備物品> 母性看護学①母性看護学概論/ウィメンズヘルスと看護(メヂカルフレンド)					
<評価方法> グループワーク20点 終講試験80点					

科目名		時間数	単位	実施時期	講義担当者
母性看護学 I		30	1	1年次	榊原 信子 龍川 初江(10)
<学習目標>					病院で看護師として勤務経験あり
1. 妊娠期、分娩期、産褥期の正常な経過と異常な経過とその看護を学ぶことができる 2. 新生児の生理的变化とその看護を学ぶことができる					
<授業計画>					
回数	時間	学習内容		方法	備考 (教材等)
1	2	妊娠期における母子の看護①	妊娠の成立 母体の変化と胎児の発育 (胎盤ホルモン 付属物 胎児の位置)	講義	テキスト PP
2	4	妊娠期における母子の看護②	健康診査 (腹圍 子宮底測定 超音波 NST) 妊娠各期の起こりやすい異常と保健指導	講義	テキスト PP
3	6	妊娠期における母子の看護③	社会資源の活用 妊娠と薬剤・感染 健康問題をもつ母子の看護 (出生前診断)	講義	テキスト PP
4	8	分娩期における母子の看護①	分娩の定義・分類 分娩の3要素 分娩の前兆 分娩の経過と所要時間 陣痛の評価	講義	テキスト PP
5	10	分娩期における母子の看護②	分娩各期の看護 帝王切開術の産婦の看護	講義	テキスト PP
6	12	産褥期における母子の看護①	産褥の生理 産褥早期の正常な経過	講義	テキスト PP
7	14	産褥期における母子の看護②	退行性変化 進行性変化 心理社会的変化 母乳育児	講義	テキスト PP
8	16	産褥期における母子の看護③	産褥の異常と回復を促す援助 (子宮復古不全 産褥感染症 排泄障害 乳房トラブル)	講義	テキスト PP
9	18	新生児の看護①	新生児の特徴 (呼吸 循環 体温 消化器 感染症)	講義	テキスト PP
10	20	新生児の看護②	新生児の観察と判断 (黄疸 体重減少 帝王切開)	講義	テキスト PP
11	22	妊娠期における母子の異常と看護①	・ハイリスク妊娠と看護 妊娠の異常 (妊娠悪阻 子宮外妊娠 胎状奇胎妊娠 妊娠高血圧症候群 早産) ・合併妊娠 (糖尿病 妊娠貧血 高血圧 マタニティブルーズ)	講義	テキスト PP
12	24	妊娠期における母子の異常と看護②	・母子感染症 ・妊娠期の健康問題と看護 ・胎児心拍数モニタリング	講義	テキスト PP
13	26	分娩期における母子の異常と看護①	・分娩経過における異常とその看護 ・胎児及び胎児付属物の異常とその看護 ・分娩時異常出血、産科ショックとその看護 (弛緩出血 羊水塞栓症 肺血栓塞栓症)	講義	テキスト PP
14	28	分娩期における母子の異常と看護②	・産科処置とそれに伴う看護 (陣痛誘発 帝王切開)	講義	テキスト PP
15	30	産褥期における母子の異常と看護①	・産褥期における異常と看護 (子宮復古不全 感染症 乳房・乳頭トラブル 産後うつ) ・新生児期にみられる異常と看護 (呼吸窮迫症候群 胎便吸引症候群 一過性多呼吸 底出生体重児)	講義	テキスト PP
終講試験					
<事前学習>					
<テキスト等の準備物品>					
母性看護学②マタニティサイクルにおける母子の健康と看護(メヂカルフレンド社) 病気がみえるVol. 10 「産科」(メディックメディア)					
<評価方法>					
終講試験					

科目名		時間数	単位	実施時期	講義担当者
母性看護学Ⅱ		30	1	1年次	榊原 信子
<学習目標> 1. 母性看護について考察し、生命観を深めることができる 2. 産褥期にある母子とその家族に対してウェルネス視点で看護過程を展開することができる。					病院で看護師として勤務経験あり
<授業計画>					
回数	時間	学習内容		方法	備考(教材等)
1	2	家族を含めた母性看護の理解①	DVD「こどもが生まれるということ」を視聴し、看護の対象、父性、親性について考えをまとめ、グループで意見を交換する	DVD	
2	4	家族を含めた母性看護の理解②		GW	
3	6	母性看護の場「地域」	母性看護は医療場面だけではなく、地域生活の中にも存在する。健康な妊娠と出産後の子育てを支える地域母性健康支援センターと母子健康包括支援センターにおける健康問題とその支援方法を学ぶ	講義	実習先の担当者
4	8	リプロダクティブヘルス / ライツとヘルスプロモーション①	リプロダクティブヘルス / ライツの倫理的課題 リプロダクティブヘルス / ライツに関する看護の実際 ・性感染症	講義	
5	10	リプロダクティブヘルス / ライツとヘルスプロモーション②	・受胎調節と家族計画 ・人工妊娠中絶と看護 ・ドメスティックバイオレンスと看護	GW	
6	12	母性看護に関わる倫理①	「出生前診断」に関するDVDを視聴し、グループごとに倫理的な視点で意見をまとめ発表する	講義	
7	14	母性看護に関わる倫理②		GW	
8	16	看護過程の展開①	対象の状態を正確に知るための看護技術 レオポルド触診法 NST装着 腹囲測定 子宮底長測定 子宮復古の観察 新生児のバイタルサイン測定 沐浴	講義	
9	18	看護過程の展開②		演習	
10	20	看護過程の展開③	紙上事例による看護過程の展開 正常な産褥経過をたどる初産婦の分娩当日から産褥1日目について看護過程を展開する。 1. 事例の情報分類・整理(事前課題) 2. 情報のアセスメント(事前課題) 3. 全体像の把握(GW) 4. 看護目標の設定 計画立案(GW) 最終日にグループごとに発表する。	GW	
11	22	看護過程の展開④		GW	
12	24	看護過程の展開⑤		GW	
13	26	看護過程の展開⑥		GW	
14	28	看護過程の展開⑦		GW (発表)	
15	30	母性看護過程	ウェルネス視点での対象の理解	講義	
終講試験					
<事前学習>					
<テキスト等の準備物品>					
母性看護学①母性看護学概論／ウィメンズヘルスと看護(メヂカルフレンド社) 母性看護学②マタニティサイクルにおける母子の健康と看護(メヂカルフレンド社)					
<評価方法>					
グループワーク40点 終講試験60点					

科目名		時間数	単位	実施時期	講義担当者
精神看護学概論		15	1	1年次	大槻 ゆう子
<学習目標> 1. ライフサイクルにおける心の発達と健康について理解することができる。 2. 社会の変化に伴う精神保健医療の現状と課題を知り、看護の役割を考えることができる。					病院で看護師として勤務経験あり
<授業計画>					
回数	時間	学習内容		方法	備考(教材等)
1	2	精神看護の基本概念	精神看護学の基本的な考え方 日本精神医療の現状 リエゾン精神看護の役割	講義	PP 資料
2	4	精神の健康と障害	精神・健康の基準 ICF ICD-10 精神障害のとらえ方	講義	PP 資料
3	6	精神保健の考え方	精神の健康、心身の健康に及ぼすストレスの影響、心的外傷と回復	講義	公衆衛生
4	8	心の仕組みと人格の発達	自我の構造 自我の発達段階	講義	PP 資料
5	10	危機介入とストレス コーピング	危機とは 危機の種類と介入 コーピング ストレス カプランの予防の概念	講義	人間関係論
6	12			講義	PP 資料
7	14	成長発達理論	エリクソンの発達理論 対象関係理論 愛着理論	講義	看護心理学、人間関係論、成人看護学概論、母性看護学概論
8	16	家族の多様性と看護	家族の役割関係 家族のセルフケア機能 家族療法について	講義	人間関係論
9	18				
10	20				
11	22				
12	24				
13	26				
14	28				
15	30				
終講試験					
<事前学習> 看護心理学、人間関係論、成人看護学概論、母性看護学概論で学習した発達理論等の復習					
<テキスト等の準備物品> 系統看護学講座 精神看護の基礎① 医学書院統, 看護学講座 精神看護の展開② 医学書院, 精神看護の看護過程 サイオ出版					
<評価方法> 終講試験					

科目名		時間数	単位	実施時期	講義担当者
精神看護学 I		30	1	1年次	河野創一(16) 大槻ゆう子(14)
<学習目標> 1. 主な疾患の症状と治療を理解することができる。 2. 精神看護におけるセルフケア不足理論の活用方法がわかる。 <授業計画>					病院で医師・看護師として 勤務経験あり
回数	時間	学習内容		方法	備考(教材等)
1	2	精神疾患と治療	精神疾患とは(事例による説明)、薬について(代表的な抗精神薬)、家族など	講義	河野創一
2	4	〃	統合失調症の症状・障害、うつ病、抗うつ薬の作用・副作用	講義	
3	6	〃	認知症の特徴・症状、記憶の分類、認知症の分	講義	
4	8	〃	統合失調症患者の治療と看護	講義	
5	10	〃	躁うつ病患者の治療と看護	講義	
6	12	〃	神経症、パーソナリティ障害、摂食障害の患者の治療と看護	講義	
7	14	〃	嗜癖・依存のある患者の治療と看護	講義	
8	16	災害と心のケア	被災者とコミュニティの回復プロセス ストレス反応への対応	講義	看護心理学、災害看護でも学ぶ
9	18	社会学習理論モデル	セルフエフィカシー	講義	大槻ゆう子
10	20	セルフケア理論	セルフケア理論とは	講義	成人看護学概論でも学ぶ
11	22	〃	セルフケア理論とは	講義	
12	24	セルフケア不足理論	セルフケア不足の理論とは	講義	成人看護学概論でも学ぶ
13	26	〃	セルフケア不足の理論 自己決定能力	講義	
14	28	〃	セルフケア不足の理論 セルフケア行動	講義	
15	30	〃	セルフケア不足の理論 基本的条件付け	講義	
終講試験					
<事前学習> 成人看護学概論で学んだセルフケア理論・セルフケア不足理論の復習					
<テキスト等の準備物品> 統看護学講座 精神看護の基礎① 医学書院統, 看護学講座 精神看護の展開② 医学書院, 精神看護の看護過程 サイオ出版					
<評価方法> 終講試験					

科目名		時間数	単位	実施時期	講義担当者
周術期と看護		15	1	1年次	濱尾 ゆかり 佐藤 謙成
<学習目標> 1. 手術療法について知り、手術侵襲と生体反応について理解できる。 2. 周術期看護の特徴を理解できる。 3. 術前・術中・術後の患者・家族の看護が理解できる。		成：6時間 老：3時間 小児：3時間 母性：3時間			
<授業計画>					
回数	時間	学習内容		方法	備考（教材等）
1	2	手術療法と生体反応の基本	手術療法の目的と種類 手術に伴う生体反応からの回復	講義	佐藤 謙成
		周術期看護の特徴	周術期にある患者・家族の特徴 周術期における多職種連携と看護師の役割 術後の患者の生活の再構築に向けての支援		
2	4	周術期における理論の活用 術前の患者・家族の看護	ロイ適応看護理論/セルフケア不足看護理論 自己効力感/エンパワメント 患者・家族の看護/手術に向けた準備	講義	
3	6	術中の患者・家族の看護 (成人期 老年期)	手術室の環境/手術室看護師の役割/麻酔 手術室入室から執刀開始までの援助/麻酔維持期の援助 麻酔終了から手術室退室までの看護 手術室における医療安全	講義	濱尾 ゆかり
4	8	術後の患者・家族の看護 (成人期 老年期)	情報収集とアセスメント/看護問題/患者家族へのケア 機能低下の早期回復と術後合併症対策 (呼吸機能/体液・循環機能/摂食・嚥下機能/消化吸収機能 /排便機能) 高齢者の術後の特徴	講義	佐藤 謙成
5	10	術後の患者・家族の看護 (成人期 老年期)	機能低下の早期回復と術後合併症対策 (代謝機能/運動機能/脳神経・感覚機能/性・生殖機能) 疼痛対策/感染対策/ドレーン管理	講義	
6	12	周術期における 小児と家族の看護	周術期にある小児と家族の体験 手術が小児に与える影響 手術器の小児と家族の看護 術前準備（プリパレーション）	講義	
7	14		安全・安楽への援助	講義	
8	16	分娩期の健康問題への看護	産科処置・産科手術 帝王切開（腰椎麻酔について）	講義	濱尾 ゆかり
9	18				
10	20				
11	22				
12	24				
13	26				
14	28				
15	30				
終講試験					
<事前学習>					
<テキスト等の準備物品>					
経過別成人看護学② 周術期看護 マタニティーサイクルにおける母子の健康と看護 (メヂカルフレンド社) 健康障害をもつ小児の看護 (メヂカルフレンド社)					
<評価方法>					
出席状況、授業態度、終講試験					

科目名		時間数	単位	実施時期	講義担当者
終末期と看護		30	1	1年次	小石澤 ゆかり (26)他
<学習目標>		成人期：12時間 老年期：12時間 小児期：6時間			
1. 終末期にある対象とその家族の特徴を知り、全人的苦痛の緩和について理解できる。					
2. 終末期にある対象の療養の場の違いによる看護の特徴を理解できる。					
3. 終末期医療における倫理的課題を考えることができる。					
<授業計画>					
回数	時間	学習内容	方法	備考(教材等)	
1	2	終末期の理解 終末期医療と看護の理解	死の理解 終末期と終末期医療の理解 終末期医療における看護の機能・役割 終末期医療における多職種連携と看護の役割	講義	千葉久美子 PP
2	4	終末期にある患者・ 家族の理解	成人期における終末期の特徴 老年期における終末期の特徴	講義	千葉久美子 PP
3	6		小児期における終末期の特徴 (在宅における医療的ケア児と家族)	講演	
4	8			講演	
5	10	終末期医療の抱える問題 死の受容	終末期医療における倫理的課題 子どもと家族の死のとらえ方	講義	千葉久美子 PP
6	12	死の受容	成人期における死のとらえ方 高齢者の死のとらえ方	講義	千葉久美子 PP
7	14	終末期における患者・ 家族との コミュニケーション	患者・家族とのコミュニケーション 患者の希望を支えるコミュニケーション アドバンス・ケア・プランニング	講義	小石澤ゆかり PP
8	16	終末期における 日常生活の支援	整容・清潔の援助/口腔ケア 移動・移乗の援助/体位変換/食事の援助排泄の援助 睡眠の援助/環境の調整	講義	田中啓子 PP
9	18	全人的苦痛の緩和	緩和ケアとは/緩和ケアにおける看護の役割 身体的ケア(疼痛・倦怠感・食欲不振・呼吸困難・ 悪心・嘔吐)	講義	小石澤ゆかり PP
10	20	全人的苦痛の緩和	身体的ケア (腹部膨満感・腸閉塞・便秘・下痢・浮腫)	講義	千葉久美子 PP
11	22	全人的苦痛の緩和	精神的ケア/社会的ケア	講義	田中啓子 PP
12	24	終末期における 退院支援・地域連携	スピリチュアルケア/認知症の人へのケア 家族への緩和ケア 終末期の退院支援・退院調整における看護の実際	講義	田中啓子 PP
13	26	臨死期の看護 在宅における看取り	臨死期の理解/臨死期における看護の役割 ピリブメントケア/グリーフケア/ 在宅での看取りにおける看護の役割	講義	小石澤ゆかり PP
14	28	看護過程	看護過程の展開 (終末期にある小児の事例演習)	演習	小石澤ゆかり GW
15	30	看護過程	看護過程の展開(事例演習)	演習	小石澤ゆかり GW
終講試験					
<事前学習>					
<テキスト等の準備物品>					
経過別成人看護学④ 終末期看護 エンド・オブ・ライフ・ケア(メヂカルフレンド社)					
健康障害をもつ小児の看護(メヂカルフレンド社)					
<評価方法>					
出席状況、授業態度、課題への取り組み、終講試験					